令和８年度第１回千葉県博物館協議会
次　　第

日時：令和８年９月４日（金）
１０時００分～１２時００分
会場：千葉県立中央博物館 会議室

１　開　会

２　開催館あいさつ（中央博物館長）

３　委員紹介・出席職員紹介

４　議　事

（１） 令和７年度外部評価結果の報告（美術館、中央博物館）

（２）令和７年度自己点検結果の報告（現代産業科学館、関宿城博物館、房総のむら）

（３）特別展「ちば恐竜博−驚異の捕食者たち−」の視察及び講評

５　その他

６　閉　会

【配付資料】
資料１－１　令和７年度外部評価結果の報告（美術館、中央博物館）
資料１－２　令和７年度外部評価票（美術館、中央博物館）
資料２－１　令和７年度自己点検結果の報告
（現代産業科学館、関宿城博物館、房総のむら）
資料２－２　令和７年度自己点検票（現代産業科学館、関宿城博物館、房総のむら）

千葉県博物館協議会委員　名簿

No.	領 域	氏　名	所　属　等	備考
1	学校教育	三星（みつぼし） 典子（のりこ）	佐倉市立下志津小学校　校長	新規 ※人事異動による 御欠席
2	社会教育	布施（ふせ） 利之（としゆき）	君津市教育委員会　生涯学習文化課　副課長	
3	家庭教育	卯木（うき） 伊津美（いづみ）	千葉県子ども会育成連合会　理事	
4	学識経験者	湯浅（ゆあさ） 治久（はるひさ）	専修大学文学部　教授	
5	学識経験者	関沢（せきざわ） まゆみ	国立歴史民俗博物館研究部　教授	オンライン
6	学識経験者	鴻野（こうの） わか菜（な）	早稲田大学教育・総合科学学術院教育学部　教授	オンライン
7	学識経験者	細矢（ほそや） 剛（つよし）	国立科学博物館　副館長（兼）植物研究部長	御欠席
8	学識経験者	髙橋（たかはし） 正（まさし）	東邦大学　名誉教授	
9	学識経験者	臼坂（うすざか） 光二（こうじ）	NHK 千葉放送局　局長	
10	学識経験者	門脇（かどわき） 伊知郎（いちろう）	合同会社わんぱく　代表	

（任期：令和６年１２月１日～令和８年１１月３０日）

令和8年度　第1回千葉県博物館協議会　出席者名簿

千葉県立美術館・博物館長

館　名	職　名	氏　名
千葉県立美術館	館長	貝塚　健
千葉県立中央博物館	館長	四柳　隆
千葉県立現代産業科学館	館長	松田　光司
千葉県立関宿城博物館	館長	豊川　公裕
千葉県立房総のむら	館長	西原　正男

千葉県 環境生活部 スポーツ・文化局 文化振興課

部課名	職　名	氏　名
環境生活部文化振興課	副参事兼室長	山口　篤
環境生活部文化振興課	副主査	玉井　里奈

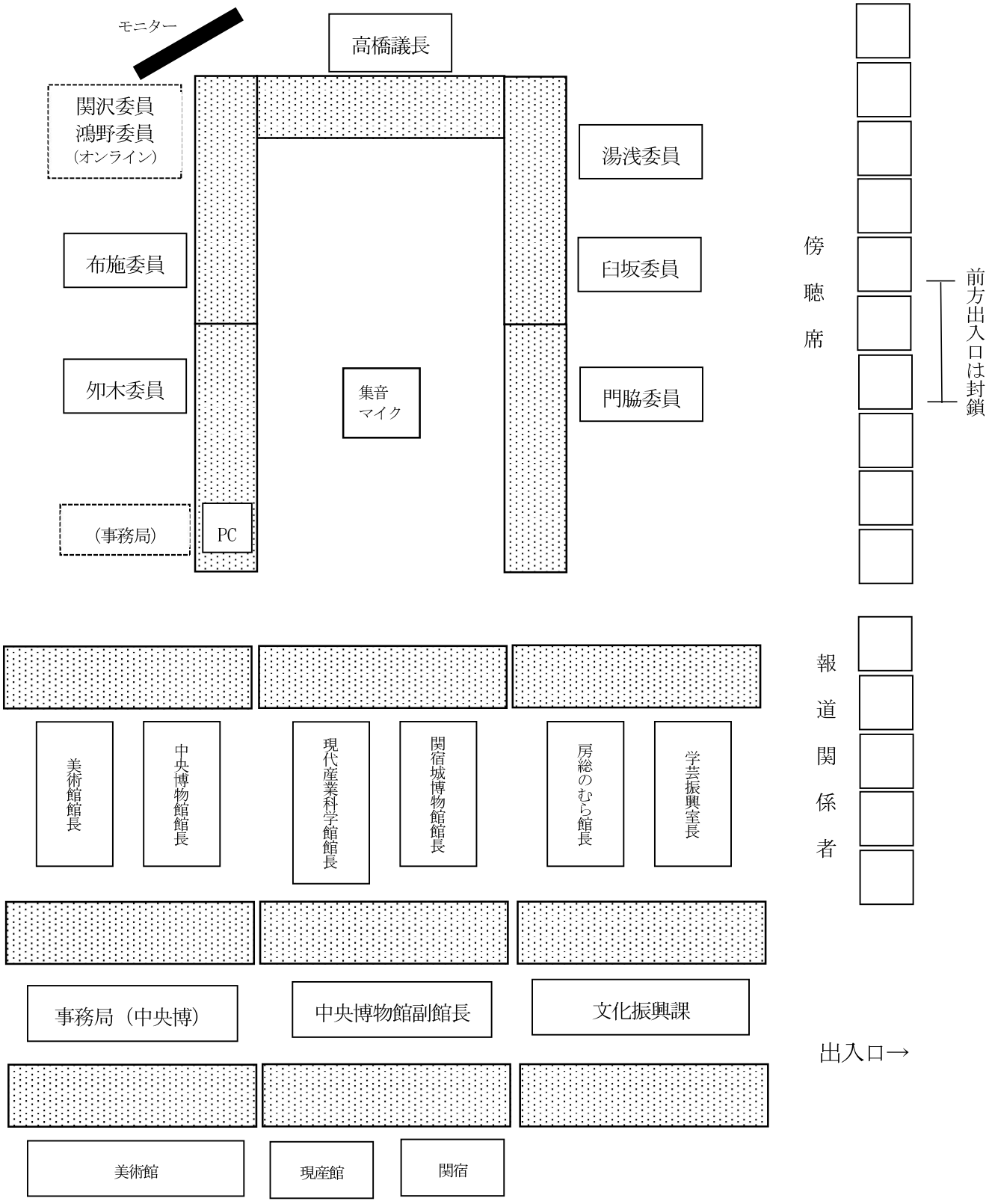
千葉県立美術館・博物館職員

館　名	職　名	氏　名
千葉県立美術館	副館長	髙山　順子
千葉県立美術館	主任上席研究員	笠木　日南子
千葉県立中央博物館	副館長	高山　裕明
千葉県立中央博物館	副館長	糸原　清
千葉県立現代産業科学館	学芸課長	石渡　克彦
千葉県立関宿城博物館	学芸課長	小倉　久宜

事務局

館　名	職　名	氏　名
千葉県立中央博物館	企画調整課長	猪野　義信
	上席研究員	監物　うい子
	研究員	山中　蛍

令和８年度第１回千葉県博物館協議会会議
座席表



資料１－１

令和７年度外部評価結果の報告（美術館、中央博物館）

（説明資料）

千葉県立美術館

総合指標、総評（資料1-3 外部評価票　P11）

項目	指標	現状	R7年度自己点検				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
1　県立美術館の認知度	「知っている」と回答した県民の割合	40.1% (R6)							50%	R10年度文化芸術への意識に関するアンケート調査を予定
2　県立美術館の利用満足度	「満足している」と回答した人の割合	43.7% (R4)							60%	R10年度世論調査を予定
3　年間入館者数	3年間の入館者数の平均	124,902人 (R5~7平均)	105,000人	124,902人	達成	A	110,000人	115,000人	120,000人	R5年121,301人　R6年100,610人 R7年152,797人

重点事業１　地域の特色を活かしたアートプロジェクト、他分野とアートの融合、世界の潮流を捉えたアート（資料1-3 外部評価票　P1）

項目	指標	現状	達成度・判定※（R7年度）				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
地域の特色を活かしたアートプロジェクト、他分野とアートの融合、世界の潮流を捉えたアート	千葉みなと地域・地元企業等との連携企画	5回	6回	7回	達成	A	7回	8回	8回	イベント参加数（千葉みなとさんばしまつり、千葉みなと大漁まつり、千葉みなと千夜市夜）３回＋ 地元企業連携の連携数（タリーズコーヒー、軒先珈琲、満月夏まつり、MUMA（ミュージアムマーケット））４回

重点事業３　国内外のアーティストとの交流の場の創出（資料1-3 外部評価票　P3）

項目	指標	現状	達成度・判定※（R7年度）				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
国内外のアーティストとの交流の場の創出	国際交流事業に係るイベント参加者等の交流人数	―	50人	54人	達成	A	70人	80人	100人	アーティスト・トーク、 ワークショップの参加者合計

重点事業４　アーティストやボランティアと子どもたちの出会いの場・創作体験の機会を創出（資料1-3 外部評価票　P4）

項目	指標	現状	達成度・判定※（R7年度）				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
アーティストやボランティアと子どもたちの出会いの場・創作体験の機会を創出	夏休みアトリエ開放への参加者（参加した子どもの人数）	―	30人	264人	達成	A	50人	70人	100人	
	夏休みアトリエ開放への参加者（ボランティアの人数）	―	10人	90人	達成	A	20人	25人	30人	

千葉県立美術館

重点事業１　地域の特色を活かしたアートプロジェクト、他分野とアートの融合、世界の潮流を捉えたアート











重点事業３　国内外のアーティストとの交流の場の創出







重点事業４　アーティストやボランティアと子どもたちの出会いの場・創作体験の機会を創出









千葉県立中央博物館

総合的目標（資料1-3 外部評価票　P12）

指標		過去実績		R7年度自己点検				目標値		
		(R5)	(R6)	目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10
中央博物館の年間利用者数	入館者数（本館）	96,381人	95,297人	109,000人	110,592人	101.5%	A	121,000人	133,000人	**146,000人**
	入館者数（海博）	60,118人	78,630人	61,000人	80,642人	132.2%	A	61,000人	61,000人	**61,000人**
	ウェブアクセス数（本館）	203,613件 (R3～R５平均)	185,881件	212,000件	198,964件	93.9%	B	221,000件	230,000件	**240,000件**
	ウェブアクセス数（海博）	55,463件 (R3～R５平均)	57,050件	59,250件	59,149件	99.8%	B	61,450件	63,650件	**66,000件**

重点事業　第３節　他機関との連携強化（資料1-3 外部評価票　P15）

取組内容	指標	過去実績		達成度・判定※（R7年度）				総合判定	目標値		
		(R5)	(R6)	目標値	実績値	達成度	判定		(R8)	(R9)	R10
様々な主体との連携	様々な主体との連携数	7件	7件	8件	6件	75%	C	B	9件	10件	**11件**
青葉の森公園周辺施設との連携強化	青葉の森周辺施設と共同で実施した事業数	0 件	0 件	1件	5件	500%	A		1 件	2 件	**3 件**
博物館や研究機関等との連携強化	他の博物館や研究機関等と共同で実施した事業への参加者数	0 人	123人	250人	4,776人	1,910%	A		500人	750人	**1,000人**

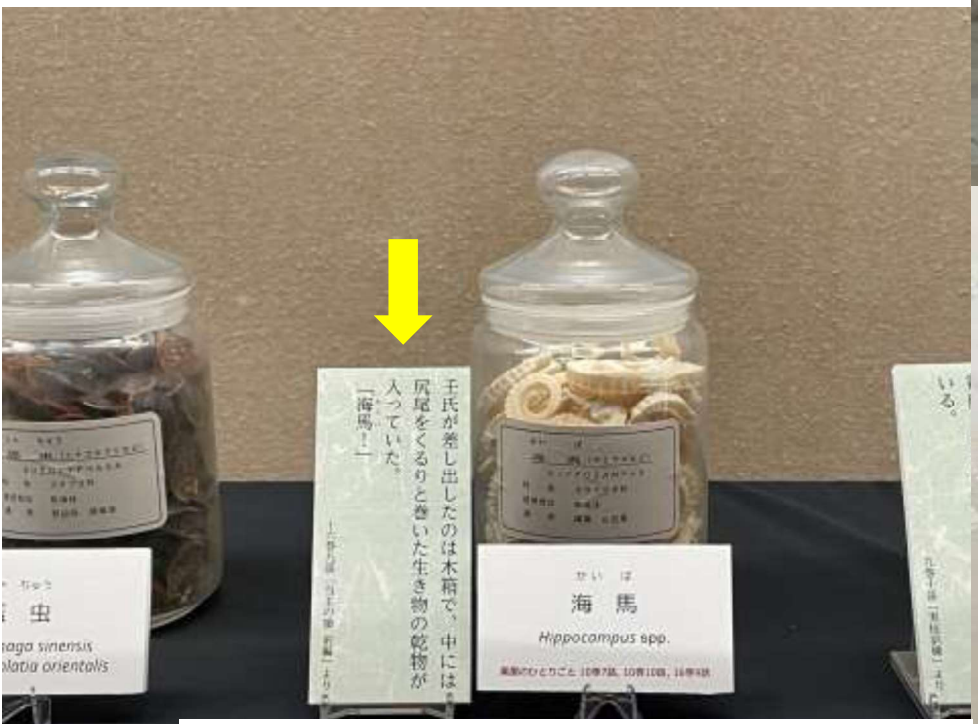
基盤事業（資料1-3 外部評価票　P18）

指標	過去実績		達成度・判定※（R7年度）				総合判定	目標値			備考
	(R5)	(R6)	目標値	実績値	達成度	判定		(R8)	(R9)	R10	
資料の利用件数	199点	236件	208件	121件	58.2%	C	B	218件	228件	**238件**	本館：88件 海博：33件
学術著作の発表数	107件	68件	112件	112件	100.0%	A		119件	124件	**130件**	本館：93件 海博：19件
外部資金等を活用した研究件数	30件	24件	27件	20件	74.1%	C		30件	33件	**36件**	本館：13件 海博：7件
講座・観察会、見学会の参加者数	2,085人	1,503人	1,750人	1,749人	99.9%	B		2,000人	2,250人	**2,500人**	本館：1,350人 海博：399人
レファレンスサービス対応件数	3,669件	3,486件	3,800件	4,131件	108.7%	A		4,000件	4,200件	**4,400件**	本館：4,054件 海博：77件





エントランスホールのフォトスポット



生薬の標本と関連する小説の一節



小説のイラスト展示

令和7年度　千葉県立美術館実施計画 外部評価票（重点事業１）

重点事業１　地域の特色を活かしたアートプロジェクト、他分野とアートの融合、世界の潮流を捉えたアート

１．実施内容および実績

R7実施項目	R7実施内容	R7実績
千葉みなと地域のイベントへの参加、近隣施設等との連携	＜イベント参加＞ ○9月　千葉みなとさんばしまつり ○11月　千葉みなと大漁まつり（館内施設の活用を図る） ○12月　千葉みなと千夜市夜 ○12月　千葉みなとクリスマスマーケット ＜近隣施設等との連携＞ ○地域飲食店との連携 ○「没後50年　髙島野十郎展」に係る「満月夏まつり」に関する近隣施設との連携（新規）ー出店数、来館者数 ○「オランダ×千葉　撮る、物語る」展に係るMUMA（ミュージアムマーケット）に関する近隣施設との連携ー出店数、来館者数	〈イベント参加〉 ○千葉みなとさんばしまつり： 開催日：9月7日、内容：ワークショップ：えんぴつであそぼ、参加者数：234人 ○千葉みなと大漁まつり：開催日：11月2日、内容：ワークショップ：県美の建築コラージュ～缶バッチでカラフル★コンポジション、参加者数：133人(うち、有料制作者76人) 館内施設の活用として、ポートパークの舞台に出演する団体（チアリーディング）の控室として和室を利用した。館内トイレを美術館入館者以外にも開放した。 ○千葉みなと千夜市夜：開催日：12月6日、内容：ワークショップ：県美の建築コラージュ～缶バッチでカラフル★コンポジション、参加者数：45人（制作者31人） ○千葉みなとクリスマスマーケット：（天候不良により中止） ＜近隣施設等との連携＞ ○地域飲食店との連携（新規） （１）タリーズコーヒー千葉みなと店 ・6月20日～29日：新規フォロー特典：美術館SNSをフォローして、画面提示した方にタリーズで使用できるサイズアップチケットを配布した。 ・8月21日～9月28日：タリーズで該当チラシを取り、美術館でチラシと入場半券を総合受付で提示した方に美術館絵葉書とアイストッピング券を配布した。 （２）軒先珈琲 ①「民藝展」の期間中に休憩室でのスライドトークにおいて、コーヒーを提供（出張販売）した。開催日：5月28日、参加者数：23人、開催日：6月11日、参加者数：23人 ②「没後50年　髙島野十郎展」の期間中、ミュージアムショップが閉まる夜間開館時に出店し、コーヒーの販売、展覧会図録や一部グッズ、ドリップパック販売を行った。開催日数：20日、図録販売数：168冊 ○「没後50年　髙島野十郎展」に係る「満月夏まつり」の実施（新規）。開催日：８月９日 内容：野十郎作品の中で特に人気の高いテーマの中に「月」があることから、満月の日に千葉県内の小売店が出店・販売するイベントを開催した。 出店数：27店舗　参加者数：95人（スタンプラリー参加者）、来館者数：1361人 ○「オランダ×千葉　撮る、物語る」展に係るMUMA（ミュージアムマーケット）の実施 第7展示室前と休憩室、みちのにわ（1月のみ）にて、展覧会関連商品や写真やファッション関係の商品を販売するとともに、 千葉県内及び千葉県近郊の小売店が出店・販売するイベントを開催した。 ①開催日：11月22日～24日、出店数：22日4店舗、23日5店舗、24日4店舗、来館者数：1795人 ②開催日：1月17日～18日、出店数：17日34店舗、18日41店舗、来館者数：9740人
写真など新しい分野を紹介する展覧会	○写真家サラ・ファン・ライ等を紹介する展示を開催する。 特別展：「オランダ×千葉　撮る、物語る」 会期：11月15日～1月18日	○特別展：「オランダ×千葉　撮る、物語る」 オランダと千葉との文化交流の一環で、オランダの写真家サラ・ファン・ライとダヴィット・ファン・デル・レーウを取り上げ、あわせて千葉の写真家、清水裕貴とともに千葉の古写真のコレクションを紹介する展覧会を開催した。 ・入場者数：5416人（会期49日） ・関連イベント ①アーティストトーク 開催日：11月15日、参加者数：44人、 開催日：12月20日、参加者数：57人、 ②講演会　開催日：12月6日、参加者数：43人、 ③JAZZコンサート 開催日：12月14日、参加者数：228人 ・図録刊行記念トークイベント 清水裕貴×大竹昭子　開催日：12月23日、開催場所：青山ブックセンター、参加者数：22人、 清水裕貴×畑井恵　開催日：1月10日、開催場所：Live Art Gallery、参加者数：18人 ・関連展示　開催日：1月9日～24日、開催場所：Live Art Gallery

２．評価指標の判定

項目	指標	現状	達成度・判定※（R7年度）				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
地域の特色を活かしたアートプロジェクト、他分野とアートの融合、世界の潮流を捉えたアート	千葉みなと地域・地元企業等との連携企画	５回	６回	７回	達成	A	7回	8回	**8回**	イベント参加数（千葉みなとさんばしまつり、千葉みなと大漁まつり、千葉みなと千夜市夜）３回＋ 地元企業連携の連携数（タリーズコーヒー、軒先珈琲、満月夏まつり、MUMA（ミュージアムマーケット））４回

３．自己点検

・本県ならではの自然と歴史・文化を活かしたアートプロジェクトを展開しアートの力で地域の魅力を高め、地域の活性化に貢献することができた。
・千葉みなとに隣接した立地を活かして、ポートパークやさんばし広場など、近隣施設とのコラボレーション、イベントに積極的に参加し地域の活性化に貢献することができた。
・連携企画は７回となり、令和７年度の目標である６回を超えることができた。
・近隣施設等の連携については、自ら連携先を開拓し、成果を納めることができた。
・美術館として初めて写真分野の展示を実施し、アーティストトークなどのイベントでは、千葉県外からの参加者が半数近くとなるなど、新たな客層を呼び込むことができた。

４．有識者による評価

【評価】
経済活動、社会活動、文化活動など様々な人間活動が相互に関連しあっている空間の中でのアートを軸としての地域への関与は美術館の重要な役割であり、そのことを認識した上でのR7年度の活動は高く評価できる。美術館として初めて写真分野（特別展「オランダ×千葉 撮る、物語る」）を取り上げ、オランダと千葉を結びつけるコンセプトが効いており、意欲的な展示内容により、県外からの新たな来館者層の開拓に繋がった点は評価できる。

【今後の課題・アドバイス】
「地域の特色を活かしたアートプロジェクト」として、単に千葉ゆかりの作家等を取り上げるだけでなく、実施によりどのような効果がもたらされたのか、より精緻な内容と波及効果を検証する必要がある。
地域連携を単発的なイベント参加にとどめず、参加者の属性や再来館の有無などを把握し、美術館の新たな利用者層の開拓へ結びつけることが望まれる。「MUMA（ミュージアムマーケット）」等については、継続的な取り組みであることが伝わる名称等の工夫が求められる。たとえば「MuMa 2025」など。
県内にある千葉大学や千葉工業大学、東京大学などの研究機関と接続し、アートと科学を横断する展開への発展が期待される。
重点項目１の中で、「他分野とアートの融合」や「世界の潮流を捉えたアート」と、「地域との連携企画」とが同一のカテゴリーとして扱われていることについても、評価上の整理をより明確にする必要がある。
千葉ポートタワーや千葉市庁舎等の近隣施設と連携し、垂直方向の移動や空間的な回遊性を活かしたイベントの検討など、地域全体を巻き込んだ展開が望まれる。社会連携活動を担う専門チームの編成や人材育成も検討課題である。

５．今後の活動方針

千葉みなと周辺施設（千葉ポートタワーや千葉市庁舎等）や地域飲食店との連携を継続・発展させ、地域に開かれた美術館のモデルとしてさらなる活性化を目指す。
地域連携の成果を単発のイベント参加にとどめず、波及効果を検証し、新たな来館者層の開拓へと繋げる。「MUMA（ミュージアムマーケット）」等のイベントは継続的な取り組みとして定着を図る。
県内の研究機関（千葉大学や千葉工業大学等）と連携して、アートと他分野が横断する展開について検討する。
これらの社会連携活動を安定的かつ効果的に実施するため、人材育成及び外部の専門人材協力を検討する。

令和７年度　千葉県立美術館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業２）

重点事業２　房総の美術をはじめとするコレクションの紹介と研究の深化

１．実施内容および実績

R７実施項目	R7実施内容	R7実績
コレクション展示コーナーのスポット導入	○「コレクション・ハイライト」展の開催による県民ニーズの調査 会期：６月11日～７月13日	○「コレクション・ハイライト」展　会期：６月11日～７月13日（会期29日間） 常設展示を設けることについての来館者アンケートを実施。〈結果〉賛成82%、反対1%、どちらでもよい17%
企画展・特別展と合わせたコレクション関連展示の実施	○「民藝展」関連展示　千葉会場限定企画「民藝運動前夜―我孫子時代の柳宗悦 朝鮮美術と白樺派」　会期：4月22日～6月29日 ギャラリートーク、スライドトークの実施 ○「没後50年　髙島野十郎展」関連展示「千葉に生きた写実の画家―椿貞雄」 会期：7月18日～9月28日 ギャラリートークの実施 ○「オランダ×千葉　撮る、物語る」関連展示（特別展出品作品と並列してコレクションを出展）会期：11月15日～1月18日　ギャラリートークの実施 ○「鉄絵銅彩　神谷紀雄陶展　春風陶花」関連展示「県展史の人々―千葉県立美術館のはじまり物語（仮）」会期：令和8年1月27日～4月5日 ギャラリートーク、スライドトークの実施予定	○「民藝展」関連展示「民藝運動前夜―我孫子時代の柳宗悦　朝鮮美術と白樺派」 ・我孫子時代の柳宗悦を取り上げ、民藝運動と千葉県の関わりを紹介した。 ギャラリートーク、スライドトーク（実施回数8回　参加人数226人） ○「没後50年　髙島野十郎展」関連展示「千葉に生きた写実の画家―椿貞雄」 ・野十郎と同時期の草土社で活躍した千葉ゆかりの作家、椿貞雄を紹介した。 ギャラリートーク（実施回数６回、参加人数303人）ワークショップ（実施回数1回、参加者数18人） ○「オランダ×千葉　撮る、物語る」関連展示（特別展出品作品と並列してコレクションを出展） ・千葉にまつわる写真の歴史に注目し、写真とともに当館のコレクションを紹介した。 ギャラリートーク（実施回数4回、参加人数70人）ワークショップ（実施回数9回、参加者数396回） ○「鉄絵銅彩　神谷紀雄陶展　春風陶花」関連展示「県展史の人々―千葉県立美術館のはじまり物語」 ・神谷が会長を務める千葉県美術会の展覧会（県展）の70年の歴史を当館のコレクションで振返った。 ギャラリートークの実施（実施回数3回　参加人数74人） ワークショップ実施（実施回数1回、参加者数28人）
我孫子と民藝運動、神谷紀雄に関する調査・研究	○「民藝展」の開催に向けた調査・研究 ○「鉄絵銅彩　神谷紀雄陶展　春風陶花」の開催に向けた調査・研究、図録への論考掲載	○「民藝展」の開催のための調査・研究 〈調査研究〉我孫子時代の柳宗悦の活動や地域との関連性等について、白樺文学館、日本民藝館、県立中央図書館等で調査を実施 ○「鉄絵銅彩　神谷紀雄陶展　春風陶花」の開催に向けた調査・研究、図録への論考掲載 〈調査研究〉作家への聞き取り調査・展覧会出品歴の網羅的調査〈図録〉論考１件を掲載
千葉ゆかりのアーティスト・コロニー、大高正人に関する調査・研究	○コロニー展開催に向けた調査・研究　会期：令和9年4月～6月 ○大高正人展開催に向けた調査・研究　会期：令和9年1月～3月	○コロニー展開催に向けた調査・研究 出展作家の調査：板谷波山について他館３回、板倉鼎について他館１回、柳宗悦について他館３回 ○大高正人展開催に向けた調査・研究 7月6日文化会館見学、8月29日近現代建築資料館調査、11月7日、8日JIA建築家大会参加、11月11日～13日広島香川調査、12月25日多摩センター駅・南大沢駅調査

２．評価指標の判定

項目	指標	現状	達成度・判定※（R7年度）				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
房総の美術をはじめとするコレクションの紹介と研究の深化	図録への論考掲載	―	1件	1件	達成	A	2件	2件	**2件**	「神谷紀雄展」図録への論考
	コレクションに関する体験プログラム数	―	6件	32件	達成	A	7件	8件	**10件**	項目２のギャラリートーク、スライドトーク、ワークショップ等の合計数

３．自己点検

・房総の美術をはじめとするコレクションの魅力を伝え、県民の財産であるコレクションの価値向上に貢献するため、コレクションに関する展示を行うとともに、他美術館や外部機関との連携を図りながら、コレクション研究を深化させることができた。
・常設展示を設けることについて、県民の意見を聞くことができた。
　アンケート結果（抜粋）・常設展示では美術館の特色を知ることができる。
　・いつでも作品を気軽に楽しめる。
　・県の財産として積極的に公開してほしい。
　・常設展は多くの美術館が実施している。
　・学芸員の研究成果を見たい。
・美術館として、常設展示を設ける方向で検討をすすめるが、展示スペースをどのように確保していくかが課題である。
・コレクションの保存状態の調査を随時行うとともに、コレクション関連展示に向けてテーマに併せた収蔵作品、作家に関する調査・研究を行った。

４．有識者による評価

【評価】
地域の美術を紹介することはシビックプライドの醸成において極めて重要であり、近年の調査・収蔵の成果やアウトプットの目覚ましい改善は高く評価できる。
「コレクション・ハイライト」展の開催を通じ、常設展示に対する県民の高いニーズ（賛成82%）を具体的に把握した点は評価できる。館長によって厳選された41点は、香取秀真の≪鳩香炉≫など、いずれもそれぞれの作家の代表作が選定されており、今後の常設展のあり方を示唆している。

【今後の課題・アドバイス】
コレクションの価値向上に向けて、短期的な成果のみならず長期的なプランを見据えた研究・展示活動を継続していくことが望まれる。研究成果の発信は、展覧会図録に限らず、講演や研究紀要など多様な手法を検討すべきである。
常設展は特別展・企画展と相乗性のある体験を提供できるように組めるかが重要である。美術史全体を体系的に見わたす常設展があれば、美術史の特定部分に焦点を合わせた企画展の観覧者に、その部分を美術史全体の中に位置付けて、とらえるための視点や知見を提供することができるが、県立美術館としては何を目指すのかという検討が重要である。
チラシ等の広報物作成にあたっては、デザイン性を保ちつつ、色覚多様性や高齢者等の視認性に配慮したユニバーサルカラーやアクセシビリティへの意識向上が求められる。（重点８にも掲載）

５．今後の活動方針

県民の財産であるコレクションの価値を高めるため、コレクションのさらなる充実をはかり、日常的な研究成果が活かされる「常設展示」スペースの確保に向けた具体的な検討を進める。
コレクションの保存状態の調査・管理を継続するとともに、短期的な成果にとらわれない長期的な視座に立った研究・展示活動を推進する。
県立美術館として、本来あるべき県民サービスの姿を模索しつつ、コレクションのあり方を考えていきたい。

令和7年度　千葉県立美術館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業３）

重点事業３　国内外のアーティストとの交流の場の創出

１．実施内容および実績

R7実施項目	Ｒ７実施内容	Ｒ７実績
ドイツからのアーティスト受入 オープンスタジオ ワークショップ	○アーティストの受入（10月23日～12月17日） ○成果展の開催（12月３日～14日） ○交流会、オープンスタジオ、ギャラリートーク、ワークショップの実施	アーティストの受入事業は、県ゆかりのアーティスト及び関係者との交流を深めるイベントの実施による国内外のアーティストの交流の場の創出のため、また成果展のキュレーション、アーティストトーク・ワークショップの企画運営等による地域住民との交流の場の創出のため実施した。 〈主な業務〉 アーティストの生活環境の整備、調査・制作のサポート、県ゆかりのアーティスト及び関係者との交流を深めるイベントの実施、本事業及び成果展に係る各種広報展開（チラシ類作成、SNS広報、記録動画作成等）、成果展のキュレーション、アーティストトーク・ワークショップの企画運営 ・アーティスト歓迎会　開催日：10月27日、参加者数：28人 ・成果展　開催日：12月3日～14日、入場者数：963人 ・アーティスト・トーク　開催日：12月3日、参加者数:43人、 ・メディア説明会　開催日：12月3日、参加者数：4社5人、レセプション：39人 ・ワークショップ　開催日：12月7日　参加者数：11人

２．評価指標の判定

項目	指標	現状	達成度・判定※（R7年度）				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
国内外のアーティストとの交流の場の創出	国際交流事業に係るイベント参加者等の交流人数	―	50人	54人	達成	A	70人	80人	**100人**	アーティスト・トーク、 ワークショップの参加者合計

３．自己点検

・国内外のアーティストとの交流の場を創出するため、今年度初めてドイツ・デュッセルドルフ市からアーティストを受け入れることができた。来年度はデュッセルドルフ市へ
　アーティストを送り出すとともに、今後は県内の市町村、企業や他のアートプロジェクトとの連携を検討し、アーティスト交流のハブとなることを目指す。
・海外のアーティストと共に短期間で展示を作り上げるという経験を通して、異文化間での円滑なコミュニケーションの取り方などの学びを得た。
・アーティスト歓迎会や成果展オープニングを通じて、県ゆかりのアーティストや県内及び近郊レジデンス関係者、国際交流事業関係者等との交流が広がり、美術館を中心とした
　文化・国際交流の輪が作られた。
・成果展、ワークショップ、各種イベントやそれに伴う広報物の確認など、短い期間でこなさなければいけない業務が多く、アーティスト本人の負担が大きくなってしまった。
・チラシ・案内状の送付を通して外部への事業の広報を行ったが、より広い県民及び関係各所への事業周知が必要だった。

４．有識者による評価

【評価】
創設間もない事業でありながら、ドイツ・デュッセルドルフからのアーティスト受け入れを実現し、歓迎会やトーク、ワークショップ等を通じて集客と交流の場を生み出した実績は、極めて大きな一歩として高く評価できる。

【今後の課題・アドバイス】
「国内外のアーティストとの交流の場の創出」を本事業の本来の目的とするのであれば、評価対象を国際交流事業に限定する必要はないように思われる。
アーティスト本人の負担が大きくなったという自己点検には留意してもらいたい。また、アーティストや運営側の負担軽減のため、受入施設の規模や滞在期間を考慮し、毎回最大規模で行うのではなく3～5年を一単位とした強弱のある計画を策定するなどの工夫をしてもよいのではないか。
レジデンス事業を今後本格的に展開するにあたっては、制作支援、通訳・翻訳、広報等を担う適切な人材育成や外部協力者の確保が急務である。
交流の対象を一般来館者だけでなく、滞在期間中の他の作家、キュレーター、研究者の訪問へと広げることが期待される。また、千葉大学など県内の美術・デザイン・建築系の大学等と連携し、学生への機会提供を図ることも検討事項として挙げられる。
滞在地ならではの特質がにじみ出る作品制作の支援や、成果展示における「千葉で創作の渦中にある状況」をより強く伝える展示上の工夫が望まれる。
成果物である作品収蔵のあり方も検討すべき。美術館に成果が蓄積されるよう、さらなる制度設計の改善を期待したい。

５．今後の活動方針

デュッセルドルフ市との交流を継続し、同市のアートシーンとより深くつながり、両者のアーティストが交流するハブとしての機能を強化する。
また、県内の市町村、企業、大学との連携を深め、学生やボランティア等へアーティストとの交流機会を提供する。
アーティストの負担を考慮し、より丁寧な制作支援や通訳等を担う適切な人材・外部協力者の確保を進める。
成果展やイベントについて、より広い県民および他の作家、キュレーター、研究者への周知をはかる。
成果物である作品収蔵も視野に入れていきたい。

令和7年度　千葉県立美術館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業４）

重点事業４　アーティストやボランティアと子どもたちの出会いの場・創作体験の機会を創出

１．実施内容および実績

R7実施項目	R7実施内容	R7実績
夏休み期間、子どもたちにアトリエ開放	○「ぐるぐる？アート夏やすみ」期間中のアトリエ開放（新規） 期間：7月19日～8月31日	○「ぐるぐる？アート夏やすみ」期間中の「県美でアートな宿題しない？アトリエ（新規）」 期間：7月19日～8月31日(38日間）、参加者数：264人（累計）、ボランティア参加者数90人(累計) 来館した子どもがふらっと立ち寄り、絵具を使ってアトリエから見える風景を描いたり、自由に制作できるようにした。8月中下旬には、絵画コンクール用の画用紙を持ち込んで絵の宿題で数回通う親子も見られた。また、不登校気味の子どもや特別支援を受ける子どもの居場所になっていることもあった。ボランティアはいつでも来た親子を受け入れ、場合によっては用具を貸し出したりして制作のサポートを行った。
アーティストによるワークショップ	○「ぐるぐる？アート夏やすみ」や「鉄絵銅彩　神谷紀雄陶展　春風陶花」におけるアーティストによるワークショップの実施	○「ぐるぐる？アート夏やすみ」 千葉ゆかりの若手アーティストによるワークショップを実施した。 ①TOMOMI氏「からだとドローイング」開催日：7月19日　参加者数：34人 第7展示室いっぱいに広げた白い紙の上に裸足で乗って自由に線を描きながら、身体を使って表現するアートを楽しんだ。 ②仲村浩一氏「砂絵を描こう！」開催日：8月16日　参加者数：34人 ポートパークで採集した砂や、カラフルな砂を用いて、「思い出の風景と私」をテーマに共に創作を楽しんだ。 ③花澤武夫氏「千葉みなとに月が出た」開催日：8月23日　参加者数：33人 「没後50年　高島野十郎展」にちなんで、満月をテーマに、千葉みなとの海岸に打ち上がった漂着物を用いて、アーティストやサポーターと参加者が表現したいものを対話を通じて見つけ出しながら、インスタレーションを制作した。 ○「鉄絵銅彩　神谷紀雄陶展　春風陶花」 ①神谷祥子氏「鉄絵銅彩の技法で小皿に絵付けをしよう」開催日：2月28日　参加者数：28人 「鉄絵銅彩　神谷紀雄陶展　春風陶花」にちなんで、鉄絵銅彩の技法を体験しながら小皿に絵付けをし、作品を制作した。
ボランティアの関わり検討	○ミュージアム・サポーターによる建物探検ツアーやガイドの試行（新規） ○大学生サポーターの継続的な募集（新規）	○ミュージアム・サポーターによる建物探検ツアーやガイドの試行（新規） 建築探検ツアー　開催数：４回　参加者数：60人、 トーク＆ガイド　開催数：21回　参加者数：150人 ○ぐるぐる？アート夏やすみでの参加者対応、運営補助 ○大学生サポーターの数（新規）令和6年度1人→令和7年度6人
小学生向けサポートプログラムの検討	○「ぐるぐる？アート夏やすみ」の実施を通じた次年度以降のプログラムの検討	来館者アンケートでも気軽に参加できるワークショップへの好意的な感想が寄せられた。令和8年度は、建築ツアーなど県美の魅力を発見するプログラムや展覧会鑑賞プログラムと、作品や展覧会につながるワークショップを融合したプログラムの開催を目指す。

２．評価指標の判定

項目	指標	現状	達成度・判定※（R7年度）				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
アーティストやボランティアと子どもたちの出会いの場・創作体験の機会を創出	夏休みアトリエ開放への参加者（参加した子どもの人数）	ー	30人	264人	達成	A	50人	70人	**100人**	
	夏休みアトリエ開放への参加者（ボランティアの人数）	ー	10人	90人	達成	A	20人	25人	**30人**	

３．自己点検

・子どもでも気軽にアートに触れられる環境を整え、子どもたちにアートの無限の可能性を伝え、未来を担う子どもたちの感性を育むため、今年度は「ぐるぐる？アート夏休み」などを実施し、アーティストやボランティアと子どもたちとの出会いの場を創出し、アートを媒介としたコミュニティを形成することができた。
・リピーターも見られ、当初の目的であった「子どもや親子が気軽に美術館に来る」ことが達成された。
・千葉の若手アーティストの手法を用いて子どもたちが制作するアーティストワークショップでは、参加者から「自由度が高く、楽しかった」という意見や「親も楽しかった」という感想があった。またアーティストも、自分が予想していなかった材料の使い方をする子どもの大胆さなどに驚いたという感想があり、互いに刺激を与え合うことができた。
・ボランティアである当館ミュージアム・サポーターの協力により、参加者の子ども達や、 保護者・大学生・シニアなど世代をこえた交流が生まれた。
・広報が遅くなってしまったため、終盤や終了後に本事業のことを知った人もいた。本事業の認知度向上が課題として挙げられる。

４．有識者による評価

【評価】
「ぐるぐる？アート夏やすみ」でのアトリエ開放（「県美でアートな宿題しない？」等）は、子どもたちが気軽に参加でき、不登校児等の居場所にもなる持続可能な環境づくりとして大成功であり、高く評価できる。
地域コミュニティーのハブとして美術館がふるまえる重要な機会である。ホームページのリポートも、記録としても来年の動員に向けても素晴らしい。
ミュージアム・サポーターによる建物探検ツアーの試行など、ボランティアを巻き込んだ充実した取り組みが評価できる。

【今後の課題・アドバイス】
次世代の育成は当該社会にとって最も重要な課題。アトリエ開放での丁寧な観察から得られた気づきを活かし、「見る」体験と「作る」体験を関連付けるなど、正規の学校教育では実現しにくい学びの場を美術館が担っていくことが期待される。
「夏休みは千葉県立美術館」として定着するよう、継続的な実施と広報の強化が求められる。事業規模の拡大に伴い、教育普及担当者の負担を軽減するための非常勤職員等アシスト要員の配置も検討すべきである。
建物探検ツアーを担うサポーターが自信を持って案内できるよう、建築史や施設の成り立ち等を専門家から継続的に学ぶ機会を設けることが望まれる。建物ツアーに、植栽や野外彫刻、さらにはみなと地区の環境全体についても視野に入れてもいいのではないか。
障害や多様な背景をもつ子どもへの対応について、現場のスタッフやボランティアに過度な負担がかからないよう、美術館側が主体的に研修や情報共有の機会を設ける体制づくりが必要である。

５．今後の活動方針

「ぐるぐる？アート夏やすみ」を夏の定番事業として定着させるため、広報の強化を図るとともに、持続可能な実施体制（アシスト要員含む担当スタッフの配置等）を検討する。
アトリエ開放等での参加者との交流から、より深い「見る」体験と「作る」体験を融合させるプログラムを検討する。
コレクションや建築の魅力を発見できる建築探検ツアー等をより充実させる。
美術館のスタッフ、ボランティア（ミュージアム・サポーター）が自信を持って活動できるよう継続的な学びの場を提供するとともに、多様な背景を持つ子どもへの対応に向けた研修や情報共有のしくみを検討する。

令和7年度　千葉県立美術館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業５）

重点事業５　多様なニーズや経験の違いに応じた体験プログラム

１．実施内容および実績

R7実施項目	R7実施内容	R7実績
展覧会の理解を深める体験プログラムの実施	○「民藝展」関連体験プログラム 記念講演会を含む計５回 ○「没後50年　髙島野十郎展」関連体験プログラム 館長によるファミリーツアーを含む計10回 ○「オランダ×千葉　撮る、物語る」展関連体験プログラム アーティストトークを含む計２回 ○「鉄絵銅彩　神谷紀雄陶展　春風陶花」関連体験プログラム 記念講演会を含む計３回	○「民藝展」関連体験プログラム： 講演会2回（森谷美保氏：美術史家、テリー・エリス氏/北村恵子氏：MOGI Folk Artディレクター） 参加者数：259人、ギャラリートーク　8回　参加者数：226人 ○「没後50年　髙島野十郎展」関連体験プログラム 講演会1回（西本匡伸氏：福岡県立美術館特任学芸員）参加者数：195人、 ギャラリートーク　6回　参加者数：303人、 館長によるファミリーツアー　2回　参加者数：13人、ワークショップ　1回　参加者数：18人 ○「オランダ×千葉　撮る、物語る」展　関連体験プログラム 講演会1回（飯沢耕太郎氏：写真評論家）参加者数：43人、アーティストトーク　2回　参加者数：101人、 ギャラリートーク　4回　参加者数：70人、ワークショップ　9回　参加者数：396人 ○「鉄絵銅彩　神谷紀雄陶展　春風陶花」関連体験プログラム 講演会2回（神谷紀雄氏：陶芸家、十四代今泉今右衛門：陶芸家）参加者数：212人、 ギャラリートーク　3回　参加者数：74人、ワークショップ　1回　参加者数：28人
アーティスト・ワークショップの実施	【再掲】 ○「ぐるぐる？アート夏やすみ」や「鉄絵銅彩　神谷紀雄陶展　春風陶花」におけるアーティストによるワークショップの実施	【再掲】 ○「ぐるぐる？アート夏やすみ」 千葉ゆかりの若手アーティストによるワークショップを実施した。 ①TOMOMI氏「からだとドローイング」開催日：7月19日　参加者数：34人 第7展示室いっぱいに広げた白い紙の上に裸足で乗って自由に線を描きながら、身体を使って表現するアートを楽しんだ。 ②仲村浩一氏　「砂絵を描こう！」開催日：8月16日　参加者数：34人 ポートパークで採集した砂や、カラフルな砂を用いて、「思い出の風景と私」をテーマに共に創作を楽しんだ。 ③花澤武夫氏「千葉みなとに月が出た」開催日：8月23日　参加者数：33人 「没後50年　髙島野十郎展」にちなんで、満月をテーマに、千葉みなとの海岸に打ち上がった漂着物を用いて、アーティストやサポーターと参加者が表現したいものを対話を通じて見つけ出しながら、インスタレーションを制作した。 ○「鉄絵銅彩　神谷紀雄陶展　春風陶花」 ①神谷祥子氏「鉄絵銅彩の技法で小皿に絵付けをしよう」開催日：2月28日　参加者数：○○人 「鉄絵銅彩　神谷紀雄陶展　春風陶花」にちなんで、鉄絵銅彩の技法を体験しながら小皿に絵付けをし、作品を制作した。
子ども向けアート体験コーナーの検討・設置	○企画展のテーマに合わせた常設ワークショップの設置	・「民藝展」常設ワークショップ（花を描こう）参加者数：562人 ・「没後50年　髙島野十郎展」常設ワークショップ（くだものの置き方）参加者数：1147人 野十郎の静物画作品を出発点に、その配置・構成・モチーフに着目した内容。 ・「オランダ×千葉　撮る、物語る」常設ワークショップ（モノクロの県美に色をかざそう／あなたの眺める風景）　参加者数：2118人（計2種類） ・「鉄絵銅彩　神谷紀雄陶展　春風陶花」常設ワークショップ（鉄絵銅彩ってなあに？2つの色でコースターをデザインしよう）参加者数：1024人

２．評価指標の判定

項目	指標	現状	達成度・判定※（R7年度）				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
多様なニーズや経験の違いに応じた体験プログラム	展示関連ワークショップ・講演会等の体験プログラムの開催数	年15回	16回	46回	達成	A	17回	18回	**20回**	項目１、２のプログラム回数の合計

３．自己点検

・展覧会の理解をより深めるため、様々な経験の違いや世代に応じたプログラムを充実させ、誰もがアートを楽しめる機会を創出することができた。
・展覧会関連の体験プログラムは、鑑賞に関するもの、ワークショップ等の制作するもの、いずれのプログラムも実施して、展覧会の理解を深めることができた。
・アーティストによるワークショップを企画し、アーティストと参加者が互いに刺激を得ることとともに、会話等を通して距離が縮まり、アートの理解を深めることができた。
・子どもたちの展覧会に関する理解を深めるため、子ども向けアート体験として開催した常設ワークショップは、「気軽に参加しやすい」といった感想が寄せられ、また子どもだけではなく大人も楽しんだことがわかる作品も多く見られた。

４．有識者による評価

【評価】
企画展のテーマに合わせた常設ワークショップをはじめ、多種多様なプログラムを精力的に実施し、幅広い参加者を得た点は高く評価できる。

【今後の課題・アドバイス】
年齢を問わないプログラムは多いが、「多様なニーズや経験・世代の違いに個々に応じた」プログラムではないように見える。乳幼児と親向け、中高生向け、ビジネスパーソン向け、高齢者・認知症向けなど、それぞれ個別のニーズに特化したプログラムへの挑戦が求められる。
特別展に関連したプログラムだけでなく、美術館のコレクションに対する理解と愛情を深めるための体験プログラム（すでに実施している館長によるトークに加え、特別なゲストによるトーク等）の充実も期待される。
実績46回に対して、次年度以降の目標値が17回、18回、20回に設定されている点については、検討の余地がある。年度ごとの展覧会内容によって実施可能数が変動することは理解できるが、開催数のみを指標とするのであれば、今回の実績を踏まえた目標設定が求められる。今後は単純な回数（の増加）ではなく、プログラムの質、対象者の広がり、展覧会との連動性、参加後の鑑賞行動への接続などを前提に事業を設計し、それらを含めて評価する体制へと発展していくことを期待したい。

５．今後の活動方針

展覧会への理解を深める常設ワークショップを継続しつつ、多様な世代のニーズを把握し、ターゲットをしぼったプログラムも開発・実施する。
特別展だけでなく、美術館のコレクションへの理解と愛情を深めるための体験プログラム（館長トークに加え、特別なゲストによるトーク等）を充実させる。
プログラムの実質的な効果を測るため、参加者の属性（年齢層、初来館・再来館の別など）や、展覧会理解・鑑賞行動への接続を把握する仕組みづくりを検討する。

令和7年度　千葉県立美術館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業６）

重点事業６　学校教育との連携による美術教育の拡充

１．実施内容および実績

R7実施項目	R7実施内容	R7実績
学校と美術館を結ぶバスの試験的な導入（新規）	○「没後50年　髙島野十郎展」と関連した、柏市立の小学校を対象とした鑑賞授業の実施 ○企画展等と関連した鑑賞授業の実施 ○事前出前授業を通じた事業の展開方法の検討	ミュージアムバス事業として、日ごろ美術館所蔵の本物の美術作品に触れる機会の少ない県内の小中学校に、美術館が手配したバスにより来館してもらい、展覧会の鑑賞等を行った。（今年度新規事業） ○「没後50年　髙島野十郎展」と関連した鑑賞授業の実施　【ミュージアムバス事業】 柏市立藤心小学校 4年生 34人　実施日：９月24日 内容：展覧会関連トーク＆ガイド ○企画展等と関連した鑑賞授業の実施 ・「オランダ×千葉　撮る、物語る」展と関連した鑑賞授業の実施　【ミュージアムバス事業】 松戸市立第一中学校　美術部 14人 実施日：1月17日 内容：展覧会関連トーク＆ガイド、ギャラリートーク、ワークショップ（館内で、自分の体や影を入れた写真を撮影し、それぞれの写真を鑑賞した。） ・「鉄絵銅彩　神谷紀雄陶展　春風陶花」と関連した鑑賞授業の実施　【ミュージアムバス事業】 浦安市立日の出南小学校　5年生 87人 実施日：2月10日 内容：展覧会関連トーク＆ガイド、ワークショップ（解説付の常設ワークショップ） ・「鉄絵銅彩　神谷紀雄陶展　春風陶花」と関連した鑑賞授業の実施　【ミュージアムバス事業】 浦安市立舞浜小学校　２年生 87人 実施日：2月13日 内容：展覧会関連トーク＆ガイド、ワークショップ（解説付きの常設ワークショップ） ・「鉄絵銅彩　神谷紀雄陶展　春風陶花」と関連した鑑賞授業の実施　【ミュージアムバス事業】 浦安市立入船小学校　特別支援学級（わかしお学級）　19人 実施日：2月20日 内容：展覧会観覧、ワークショップ ・ミュージアムバス事業以外の鑑賞授業を実施した学校：２校（小学校１校、中学校１校） 内容：展覧会鑑賞 ○事前出前授業を通じた事業の展開方法の検討 9月24日に実施した「没後50年　髙島野十郎展」と関連した鑑賞授業に係る出前授業を行った。 実施校：柏市立藤心小学校4年生 実施日：7月2日 内容：学芸員による展覧会解説を聞き、髙島野十郎ってどんな人だろう？と考えた。 自分で興味をもったことについて探究していく学習の導入を行った。 実施日：9月5日 内容：児童一人一人が調べ学習を通して知ったことや気付いたことなどについてまとめ、 ミニ発表会で美術館学芸員へ発表をした。
学校向けプログラムの開発・学校との協議	○教育現場への聞き取りや提案を通じた学校団体向けのプログラムの開発	・学校来館対応にて実施したプログラムや、下見打合せ等で聞き取りを行った。トーク＆ガイド（対話型鑑賞に準じたもの）による鑑賞プログラムとワークショップを希望されることが多かった。建築探検ツアーを希望する学校もあり、令和8年度は県美のコレクションや建物に親しみが持てる内容のワークショップの開発を行う。
教員向け研修コンテンツの検討・学校との協議	○教育現場への聞き取りや提案を通じた学校団体向けの美術館活用方法や展覧会を紹介するプログラムの作成	・ミュージアム事業で来館した学校のうち、事前に出前授業を行っていない学校は、事前に教員との打合せを実施し、事業の内容を伝え、美術館活用方法を提案した。令和8年度は学校団体向けプログラムの開発とともに、その内容を記載した教員向けの美術館利用ガイドを作成する。

２．評価指標の判定

項目	指標	現状	達成度・判定※（R7年度）				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
学校教育との連携による美術教育の拡充	学校団体の利用数	5校 （R4～6年度平均）	8校	10校	達成	A	10校	12校	**15校**	ミュージアムバス　５校 ミュージアムバス以外の鑑賞授業校　２校 その他の学校団体利用　3校

３．自己点検

・学校教育との連携による美術教育の拡充をはかるため、今年度は初めてミュージアムバス事業を実施した。事前に学芸員が学校におもむき、出前授業を行った場合もあり、鑑賞の理解を深めるとともに、子どもたちと美術館の距離を近づけることができた。
・学校と美術館を結ぶバスの試験的な導入については、小中学校への周知開始が令和７年３月と、学校行事がほぼ確定した遅い時期ではあったが５校が参加した。令和8年度に向けては、学校行事の立案に入る令和８年１月に周知を実施するとともに、美術の教員が集まる会議等でも周知を行う。
・学校向けプログラムについては、これまで実施してきた「彫刻探検ツアー」に加え「建築探検ツアー」を新たに設けることができた。一方で、当館に常設展示室が無くコレクションを常に展示することができないため、コレクションに基づく定番プログラムを組むことが難しい。現在は展覧会ごとに学校向けのプログラムを組んでいるが、今後は、コレクションに基づく多様な学校向けプログラムを開発したい。

４．有識者による評価

【評価】
ミュージアムバスの試験導入により、県内小中学校の来館を促したことは、全国的にも注目される意義深い取り組みとして高く評価できる。
事前の出前授業と来館時の鑑賞授業を組み合わせた、学習プロセスとしての連携構築が評価できる。また、ニーズ調査から建物探検ツアーへの需要を見出した点も優れている。

【今後の課題・アドバイス】
展覧会ごとにプログラムを作り直す負担を軽減するため、コレクション、鑑賞の基本、素材や表現技法などを軸とした、継続的かつ汎用性の高い「定番プログラム」の開発が必要である。
インクルーシヴな姿勢は不可欠である。障害の有無だけでなく、民族や性の差別も越えて広げていく必要がある
学校教員との十分な意思疎通を図り、美術館の利用でどのような学びが得られるかを共同で研究・開発していくことが求められる。
県内の美術・デザイン・建築系の大学や専門学校などとの連携を深め、鑑賞やワークショップに限らず、展示機会の提供や国際交流事業への参加を促すことも考えられる。
今後も予算を確保して継続・拡大していただきたい。交通手段の提供や学校教員へのミュージアム理解の促進は美術館単独では困難な部分もあるため、県によるグランドデザインとの連携が不可欠である。

５．今後の活動方針

「ミュージアムバス事業」の周知を学校行事の立案時期（1月）に合わせて行い、県内小中学校の積極的な利用を促進する。
展覧会ごとのプログラム作成負担を軽減するため、コレクションや建築、鑑賞の基本を軸とし、常設展示の整備を前提とした汎用性の高い「定番プログラム」を開発し、教員向けの「美術館利用ガイド」を作成する。
教員と十分な意思疎通を図り、美術館利用を通じた学びを共同で研究・開発するとともに、県内の大学や専門学校との連携による展示・交流機会の提供も検討する。

令和7年度　千葉県立美術館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業７）

重点事業７　資料のデジタルアーカイブ化、SNS等を活用した積極的な情報発信

１．実施内容および実績

R7実施項目	R7実施内容	R7実績
デジタルアーカイブ化	○浅井忠関連300件・コレクション100選関連100件のデジタルアーカイブ化	○浅井忠関連のデジタルアーカイブ化 ・浅井忠が書いた葉書（研究資料）150件の読み下し作業を実施した。 ・浅井忠以外に、作品180件の高精細画像を撮影（作品１点につき約3点カットの画像）した。 ○コレクション100選関連のデジタルアーカイブ化 ・100件の資料情報整理、撮影、解説文、英訳を完了し公開した。
デジタルコンテンツの公開	○コレクション100選のデジタルコンテンツの作成及び公開	・コレクション100選のデジタルコンテンツを作成し、美術館のホームページに公開した。
ホームページリニューアル作業	○コレクション紹介ページにおけるリニューアル作業	・美術館ホームページのコレクションのページを改変し、資料検索やデジタルアーカイブにアクセスしやくなるよう変更した。

２．評価指標の判定

項目	指標	現状	達成度・判定※（R7年度）				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
資料のデジタルアーカイブ化、SNS等を活用した積極的な情報発信	解説・高精細画像等を付したデジタル化・公開点数	―	300点	100点	33%	D	600点	900点	**1,300点**	
	デジタルコンテンツのアクセス数	―	1,250件	17,727	1418%	A	~~2,500件~~ 20,000件	~~3,750件~~ 22,000件	**~~5,000件~~** **24,000件**	ホームページ内の「コレクション関連ページのアクセス数」

３．自己点検

・コレクションの魅力や研究成果をあらゆる人々が身近な環境の中で触れられる場面を創出するため、デジタル技術を活用してオンライン上で公開することができた。
・デジタルアーカイブ化は、浅井の研究資料に関しては目標に及ばなかったものの、浅井以外の作品の高精細画像の撮影（180件）を進めることができた。また、コレクション100選のデジタルアーカイブ化も完了した。
・解説・高精細画像等を付したデジタル化・公開については、現行の情報システムでは高精細画像を公開する性能がなかったため、別サーバーと契約し、コレクション100選については公開することができたが、目標値の300点には及ばなかった。
・デジタルコンテンツの公開については、コレクション100選のページを新たに公開した。
・デジタルコンテンツのアクセス数を評価指標としていたが、数値で把握することが不可能であったため、今後の指標としては、ホームページ内の「コレクション関連ページのアクセス数」へと変更したい。
・ホームページのリニューアル作業については、コレクション紹介ページからの導線を改善し、資料検索やデジタルアーカイブへのアクセスを容易にした。
・現行の情報システムに高精細画像を公開できないことから、「解説・高精細画像等を付したデジタル化・公開点数」の指標は今後もD判定とならざるを得ない。しかし、高精細画像未撮影の作品については、今後も撮影件数を増やしていきたい。また、現行の情報システムに上げられるよう素材画像の加工をすすめ、順次アップしていきたい。同時に、浅井忠の研究資料のデジタルコンテンツも増やしていきたい。

４．有識者による評価

【評価】
千葉のアイデンティティ確立の核となる浅井忠関連資料の研究や、所蔵品のデジタルアーカイブ化・公開を着実に進めている点は評価できる。
ホームページのコレクションのアーカイブは見やすい。

【今後の課題・アドバイス】
単に高精細な画像を公開するだけでなく、まずは精度の高い言語情報（解説文）や低解像度の画像を先行して公開するなど、利活用の実態に基づく優先順位を踏まえた設計が望まれる。
デジタル化にあたっては、点数の多寡を追うだけでなく、適切な解説作成や英語翻訳の付与など、利用者が作品の価値を十分に理解できる質的側面の充実が重要である。
浅井忠関連資料については、県立美術館以外の作品や資料も参考として総合的に公開・リンクできれば、美術館の存在感がさらに高まると考えられる。
設置者は、デジタルアーカイブ化を継続できる環境（経費、空間、人材）維持を心掛けていただきたい。
デジタル化・公開が美術館にとって重要な目標であり、現行システムがその達成を阻害しているのであれば、まずはシステム自体の改善や変更を求めるべきである。システムの変更が美術館の努力だけでは実現困難である場合には、たとえデジタル化・公開が重要な目標であっても、現行の目標値や評価指標そのものを見直す必要がある。美術館の努力では解決できない要因によって、毎年度低評価が繰り返されるような指標は、評価制度として適切とは言い難い。

５．今後の活動方針

コレクションの高精細画像撮影を継続して進め、浅井忠の研究資料等のデジタルコンテンツを順次拡充していく。
システムの制約がある中でも、まずは精度の高い言語情報（解説文や英語翻訳等）や低解像度画像の先行公開など、現行システムで可能なことを見極めて、公開実施の計画を推進する。
浅井忠をはじめ当館を代表する美術家の関連資料については、当館以外の作品や資料も総合的に参照できるよう公開・リンク方法の工夫を検討する。

令和7年度　千葉県立美術館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業８）

重点事業８　様々な特性を持つ人々への対応、あらゆる人々にやさしい環境の整備

１．実施内容および実績

R7実施項目	R7実施内容	R7実績
平易な解説文など展示方法の改善・合理的配慮	○合理的配慮の視点での解説文や照明の課題の洗い出し ○改善の実施	・国立アートリサーチセンターの『合理的配慮のハンドブック』やボーダレス・アートミュージアムNO-MA『やさしい美術館ガイド』などを参考にしながら、解説文や照明の課題の洗い出しを行い、今後の方針を検討した。
ガイドシステムの導入検討	○他館の状況確認や専門業者への聞き取り ○令和8年度試験導入に向けた検討	・ガイドシステムについて実績のある数社に、アプリや機器の多言語や音声などの仕様、予算について聞き取りを行い検討を進めた。次年度の試験的導入の際には、ハード機器を必要としない（QRコード活用など）対応による課題の洗い出しをしたい。
施設整備の検討とあわせて館内サインの多言語化の検討・実施	○他館の状況確認や専門業者への聞き取り ○優先度の高いサインにおける多言語化	・様々な特性を持つ人々への対応、あらゆる人々にやさしい環境の整備のため、施設整備については、他館の状況を確認するとともに、専門業者への聞き取りを行った。令和8年度は「みちのにわ」に、ベビーカーや車いす用歩道整備を実施予定。
デジタルコンテンツへの英語解説付与	○「コレクション100選関連作品」での英語解説の付与	・令和7年度公開予定のデジタルコンテンツである、コレクション100選関連の100件については、英語解説を付与した。
触れる彫刻展などのワークショップの実施	○触れる彫刻展でのワークショップの実施 ○令和8年度視覚・聴覚障害を含むインクルーシヴワークショップの内容検討	○・「彫刻に触れるとき －「さわる」と「みる」がであう彫刻展 2026」と「うみのもりの玉手箱５（障害者の作品展）」との合同展示解説会を実施。 開催日：2月1日、参加者数：３０人 ・「彫刻に触れるとき －「さわる」と「みる」がであう彫刻展 2026」の関連シンポジウムを実施。　開催日：2月15日、参加者数：20人 ○令和8年度視覚・聴覚障害を含むインクルーシヴワークショップの内容検討 ・令和7年度中は、聴覚障害者のための筆談による対話型鑑賞や、視覚障害者のためのアイマスクを使った対話方鑑賞をミュージアムサポーターと共に試行した。また、他の公立美術館におけるインクルーシヴな取り組み事例を調査するとともに、令和８年度以降に当館で展開したいワークショップ案をリストアップし、内容について精査している。

２．評価指標の判定

項目	指標	現状	達成度・判定※（R7年度）				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	（R8）	（R9）	R10	
様々な特性を持つ人々への対応、あらゆる人々にやさしい環境の整備	障害者等との交流プログラム開催回数	ー	1回	2回	達成	A	2回	3回	**4回**	「彫刻に触れるとき」展と「うみのもり玉手箱５」の合同展示解説会 「彫刻に触れるとき」展関連シンポジウム

３．自己点検

・美術館が、あらゆる人々のよりどころになるとともに、日々変化し多様化する社会において、未来につながる持続可能な美術館を目指し、今年度は展示方法、合理的配慮、館内サイン等について他機関等への聞取りを行った。今後は美術館としての具体的な整備について検討を進めていくとともに、インクルーシヴなプログラムについて充実をはかる。
・展示方法の改善、ガイドシステムの導入、サインの多言語化などについては、調査を進めたが取りまとめに至らなかった。
・今年度公開のデジタルコンテンツであるコレクション100選については、英語解説を付与できた。
・インクルーシヴなワークショップとして試行的に筆談による対話型鑑賞を実施した。引き続き、試行を重ね、インクルーシヴプログラムの充実をはかっていく。

４．有識者による評価

【評価】
筆談やアイマスクを用いた対話型鑑賞など、アクセシビリティ向上に向けたインクルーシブな実践に着手し、ハード・ソフト両面で着実に取り組んでいる点は高く評価できる。

【今後の課題・アドバイス】
完璧を目指して着手に時間をかけるより、試行錯誤を重ねながら館の特性に合わせた実践を進めることが推奨される。障害の有無だけでなく、民族や性の多様性も視野に入れた総合的なインクルーシブ環境の整備が求められる。
誰もが理解しやすい情報提供として、作品解説文に「やさしい日本語」を取り入れる工夫を取り入れてはどうか。
合理的配慮やアクセシビリティの基本理念を共有するため、館長から警備・受付スタッフに至るまで、全職員を対象とした継続的な研修の実施が必要である。
チラシ等の広報物作成にあたっては、デザイン性を保ちつつ、色覚多様性や高齢者の視認性に配慮したユニバーサルカラーやアクセシビリティを積極的に取り入れる。（再掲）

５．今後の活動方針

筆談やアイマスクを用いた対話型鑑賞等、インクルーシブな取り組みを引き続き試行・精査していく。
ガイドシステムの試験導入に向けた課題の洗い出しを行う。
作品解説文への「やさしい日本語」の導入検討など、誰もが理解しやすい情報保障に努めるとともに、全職員を対象とした合理的配慮やアクセシビリティに関する研修を継続的に実施する。

令和7年度　千葉県立美術館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業９）

重点事業９　館全体の施設整備に向けた検討、収蔵環境の整備と作品保全

１．実施内容および実績

R7実施項目	R7実施内容	R7実績
施設整備の検討・調整	○不具合のある設備の洗い出し ○令和8年度設計に向けた準備	・令和8年度以降の施設の修繕に向け、館の劣化度調査の予算を確保した。 ・関係部署と協議し、「展示室及び収蔵庫空調配管工事」を行うことに対し適正判定を得た。 ・「展示室及び収蔵庫空調配管工事」の算定を行い、設計に要する費用を令和8年度当初予算で要求した。
パークとの回遊性向上のための設計・施工	○令和6年度に業者から受けた提案に基づく関係部署とのすり合わせ ○優先順位の高い箇所の施工 ○次年度以降の施工に向けた設計	・関係部署と定期的に会議を開催し、視察や意見交換を実施している。 ・生垣の剪定や千葉ポートパーク案内看板の増設、みちのにわに通路を設置するなど、業者から受けた提案内容や関係部署との意見交換の中、優先順位の高いものから施工した。 ・次年度以降の施工内容について、精査し、具体的な案を検討した。
収蔵庫・展示室の設備改善	○劣化が生じている空調設備の令和8年度設計に向けた準備	・「展示室及び収蔵庫空調配管工事」の算定を行い、設計に要する費用を令和8年度当初予算で要求した。 ・空調機配管の水漏れ箇所については、配管を3月に修繕した。
作品管理要領の見直し	○作品管理徹底のための作品状態の記録方法及び作品管理要領の見直し	・作品状態を記録するための「コンディションカード」の様式を整え、今年度展示した収蔵作品について作品の状態を記録し、コンディションカードを作成した。 ・作品管理要領の見直しのため、近県の公立美術館の規定に係る資料を収集し、管理要領の一部として、定められていなかった閲覧規定を策定した。

２．評価指標の判定

項目	指標	現状	達成度・判定※（R7年度）				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
館全体の施設整備に向けた検討、収蔵環境の整備と作品保全	県立美術館の利用満足度「満足している」と回答した人の割合	43.7% (R4)							**60%**	R10年度世論調査を予定

３．自己点検

・未来につながる美術館を実現するため、今年度は「展示室及び収蔵庫空調配管工事」について算定を行い、基盤整備に向けて準備を行うとともに、県民の財産であるコレクションを次世代に受け継ぐため、「コンディションカード」の様式を整え、閲覧規定を策定した。今後は基盤の整備を進めるとともに、作品の管理を徹底していく。
・令和8年度に「劣化度調査」及び「展示室及び収蔵庫空調配管工事」の設計について実施できるよう予算要求を行った。今後も空調配管工事や当該調査の結果をふまえた必要な工事について予算要求を行っていく。
・パークとの回遊性向上については、業者からうけた提案や関係部署との意見交換の中から、優先順位が高いものを精査し、今年度施工することができた。更に回遊性の向上が図れるよう、引き続き関係機関と連携しながら取り組んでいく。

４．有識者による評価

【評価】
空調配管工事に向けた準備や、コンディションカードの作成、作品管理要領の見直しなど、来館者の目に見えにくい作品保全や基盤整備の地道な活動を計画的に進めている点は強く支持される。
パークとの回遊性向上に向けた生垣剪定や通路設置など、前倒しで環境改善を図った姿勢は高く評価できる。

【今後の課題・アドバイス】
美術館の社会的機能の一つであり、社会が美術館に委託している役割であることを認識することが重要。老朽化した施設の改善は急務である。
「コンディションカード」の作成を含めた作品管理要領の見直しは非常に重要である。こうした作業には高度な専門性が必要
建設費の高騰に備え、弾力性のある対応方針の策定と、空調工事等に必要な予算獲得に向けた論理的な説明の構築が必要である。
館内外の回遊性向上や環境維持のため、植物や野外彫刻の保全に関心を持ち、実践・管理できる内部スタッフの確保・育成が望まれる。手入れの行き届いた環境整備は、美術館の存在価値を広く高めることに直結する。

５．今後の活動方針

建設費の高騰も視野に入れて「展示室及び収蔵庫空調配管工事」等の着実な予算獲得を進める。
コンディションカードの運用や作品管理要領の見直しを実施する。来館者の目に見えにくい収蔵作品の適切な管理・保全活動を粛々と推進する。
館内外の回遊性向上のため、関係機関と連携して優先度の高い環境整備を順次施工するとともに、野外彫刻をはじめ作品保全に努める。

令和7年度　千葉県立美術館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業10）

重点事業10　アメニティ設備の整備・充実による魅力的な美術館空間の創出

1．実施内容および実績

R7実施項目	R7実施内容	R7実績
憩いの空間の整備	○無料エリアにおける常設体験コーナーの設置	・エントランスでのワークショップは原則常設で行うこととした。また、講堂や第７展示室では企画展の開催に合わせ、空間を活用してワークショップを行った。 ・無料エリアで随時ワークショップが可能となるように移動式ワークショップワゴンや作業机を導入した。
レストラン・ショップの設備整備	○レストラン再導入に向けた設備整備 ○ショップの什器や設備の点検及び更新	・レストランの再開については、年度当初公募をかけたが、施設の老朽化等により応募が無かったため、厨房施設の修繕費用を措置した。 ・不定期ではあるが、キッチンカーによる食事の販売を行った。
コレクション関連グッズの開発、レストランメニューの充実	○コレクション関連グッズの開発 ※令和6年度末にレストラン閉店。再導入時にメニューの充実を検討。	・令和6年度に制作した図録『千葉県立美術館コレクション100選』及びポストカード（収蔵作品及び建築）を継続してショップにて販売した。 ・コレクション関連グッズとして、コレクション（香取秀真の鳩香炉）をデザインしたボールペンと、美術館の概観をデザインしたトートバッグを開発し、ショップでの販売を開始した。

2．評価指標の判定

項目	指標	現状	達成度・判定※（R7年度）				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
アメニティ設備の整備・充実による魅力的な美術館空間の創出	県立美術館の利用満足度「満足している」と回答した人の割合	43.7% (R4)							60%	R10年度世論調査を予定

3．自己点検

・魅力的な美術館空間の創出のため、今年度は子ども向けの空間整備として無料エリアにおける常設体験コーナーを整備した。
・レストランの再開については、厨房施設の修繕を令和8年度実施できるよう、予算要求を行った。現在は来館者が利用できる休憩室として活用、レストラン入口に自動販売機を設置するなど利用しやすい状況にしている。
・コレクション関連グッズの開発・製品化を行い、充実をはかった。

4．有識者による評価

【評価】
子ども向けの常設体験コーナーの整備や、グッズの開発などを着実に進めている点は高く評価できる。
レストラン再開に向けた厨房修繕費用の措置は、美術館の魅力を上げる上で適切であると評価できる。

【今後の課題・アドバイス】
長時間滞在に欠かせない条件であり、この項目は、利用者満足度と直結している。
レストラン再開にあたっては、都市部の美術館でも運営が困難な事例が多いことを踏まえ、既存の常識にとらわれず、現在の立地や条件において真に提供すべき飲食・滞在機能は何かを多角的に検討することが求められる（若手経営者への期間を限定した委託など）。
飲食メニューやショップのグッズ開発は専門業者に任せきりにせず、学芸スタッフが積極的に関与し、千葉という地域性を活かしつつ、展示体験と相乗効果を生むオリジナル商品を創出することが期待される。

5．今後の活動方針

レストランの再開に向けては、既存の枠にとらわれず、現在の立地や条件において真に求められる飲食・滞在機能（若手経営者への期間を限定した委託等）について多角的に検討し、準備を進める。
コレクション関連ミュージアム・グッズの開発や、レストランが再開した場合の飲食メニューの開発においては、学芸スタッフが積極的に関与し、展示体験と相乗効果を生むオリジナル商品を創出する。

令和8年度　千葉県立美術館実施計画 外部評価票（総合指標、総評）

１．判定

項目	指標	現状	R7年度自己点検				目標値			備考
			目標値	実績値	達成度	判定	（R8）	（R9）	R10	
1　県立美術館の認知度	「知っている」と回答した県民の割合	40.1% （R6）							50%	R10年度文化芸術への意識に関するアンケート調査を予定
2　県立美術館の利用満足度	「満足している」と回答した人の割合	43.7% （R4）							60%	R10年度世論調査を予定
3　年間入館者数	3年間の入館者数の平均	124,902人 （R5~7平均）	105,000人	124,902人	達成	A	110,000人	115,000人	120,000人	R5年121,301人　R6年100,610人 R7年152,797人

２．自己点検

定量的な目標値は、ほとんどの項目で達成できた。年間入館者数も、令和7年度は140,000人を上回った。今後とも目標値を超える実績を達成できるように努力していきたい。
定量的な成果と同時に個々の活動の内容を充実させることが必要だと考えている。全体の事業のなかで、新規事業を含め、展示室、アトリエ棟などでの活動が大きく拡大した半面、デジタル化事業（画像資料の整備を含む）、学校との連携事業など、目につきにくい活動への注力が十分だったとは言えない。作品・資料の基本的データの整備、作品管理など、研究活動・展示活動の基盤づくりにも取りかかっていきたい。

３．有識者による総評

【評価】
多岐にわたる活動に対して具体的な計画を設け、年間入館者数などの定量的な目標値を達成できたことは、新体制下での目覚ましい成果として高く評価できる。
数年間にわたる自発的な改革と具体的な事業の実施・評価を重視した取り組みは、全国的にも非常に高いレベルにある。諸活動が活性化し、「千葉県美らしさ」が確立されつつあり、力強いイメージを持つ館へ生まれ変わった点は高く評価できる。
夏休みの子ども向けワークショップやアトリエ開放などが、子育て層の新たな獲得に着実につながり、利用満足度の向上に寄与していると評価できる。

【今後の課題・アドバイス】
目先の数値にとらわれず、長期的なビジョンや日常の理念（建物や庭がどのようなレベルで維持され、千葉県の文化のあり様をお手本として示すか等）を常に確認しながら、事業の質の向上に取り組むことが求められる。
美術館単独での改善が難しい分野（学校との連携、周辺開発等）や専門性の高い分野については、県庁の他部署や他県立施設との全庁的な連携を図り、役割分担の合意形成を行うことが効果的である。
県民の認知度向上だけでなく、既に関心を持つ県外の人々への認知度を上げるアプローチがコストパフォーマンスの観点から推奨される。また、県発信の広報においても、美術館の主体性が見えづらくならないよう、VI（ヴィジュアル・アイデンティティ）計画を含めたブランディングの構築と広報上の工夫が期待される。
アクセシビリティ向上等のインクルーシブな取り組みは、美術館全体のイメージアップにつながる。館長から受付・警備スタッフに至るまで全員参加の研修等を通じて基本理念を共有し、ソフト・ハード両面で推進することが望まれる。
美術館の社会的な役割として、出張展示や出張講演、サテライト展示など、多様な活動展開が期待される。

４．今後の活動方針

目に見える定量的成果の達成に努めるとともに、個々の活動内容の質的向上を図る。展覧会活動や普及活動の質を高め、作品・資料の基礎データ整備、作品管理、デジタル化事業、学校連携といった「研究・展示活動の基盤づくり」に一層注力する。
「千葉県美らしさ」の追求とブランディング これまでの取り組みで醸成されつつある「千葉県美らしさ」を確固たるものにするため、中長期的なビジョンを掲げ、VI（ヴィジュアル・アイデンティティ）計画を含めた独自のブランディングを構築し、効果的な広報活動を展開する。
全庁的な連携による事業の最大化 美術館単独では対応が難しい課題（広域的な学校連携、周辺施設との相乗的な開発、サテライト展示等）については、県庁他部署や他施設等と連携し、全庁的な合意形成を図りながら美術館のポテンシャルを最大化する。
インクルーシブな美術館に向けた全館体制の構築 多様なニーズに応える「やさしい美術館」を実現するため、ハード面・ソフト面の両面から環境整備を進めるとともに、全職員を対象とした合理的配慮やアクセシビリティに関する研修を継続実施し、館全体の理念として定着させる。

令和７年度　千葉県立中央博物館実施計画 外部評価用自己点検票（総合的目標）

1　判定

指標		過去実績		R7年度自己点検				目標値			備考
		(R5)	(R6)	目標値	実績値	達成度	判定	(R8)	(R9)	R10	
中央博物館の年間利用者数	入館者数（本館）	96,381人	95,297人	109,000人	110,592人	101.5%	A	121,000人	133,000人	**146,000人**	
	入館者数（海博）	60,118人	78,630人	61,000人	80,642人	132.2%	A	61,000人	61,000人	**61,000人**	
	ウェブアクセス数（本館）	203,613件 (R3～R５平均)	185,881件	212,000件	198,964件	93.9%	B	221,000件	230,000件	**240,000件**	
	ウェブアクセス数（海博）	55,463件 (R3～R５平均)	57,050件	59,250件	59,149件	99.8%	B	61,450件	63,650件	**66,000件**	

2　自己点検

・本館の入館者数は目標値を超えた。特別展「房総うみの幸」、秋の展示「水辺の昆虫」、および人気小説「薬屋のひとりごと」とコラボした企画展「生薬~自然からの恵み~」が好評であったことが来館者増につながった。
・本館のウェブアクセス数は目標値には及ばなかった（達成度93.9％）ものの、前年度は上回った。引続きSNSの発信に努め、ウェブアクセス数の増加につなげる。
・海博の入館者数は目標値を大きく上回った。ウェブアクセス数についても達成度が99.8％とほぼ達成した。

3．有識者による評価

・本館・海博ともに入館者数の目標を達成し、とりわけ海博は達成度132％と大きく上回った。来館者のニーズを的確に捉えた特別展や企画展が入館者増に結実しており、自己点検の分析は妥当である。本館のウェブアクセス数は目標未達（93.9％）ながら前年度を上回っており、SNS発信を強化する方向性も適切である。
・入館者数が目標値を達成したことは、魅力ある特別展・企画展の開催による効果が大きいと思われるが、昨年度の実績を下回っていることから、さらなる努力を期待したい。
・特別展「房総うみの幸」、秋の展示「水辺の昆虫」、企画展「生薬~自然からの恵み~」が好評で入館者数の目標値が超えたのは、企画チーム（担当学芸員、広報担当、全職員）の全員の努力の結果だと思います。予算が厳しく大変ななかですが、今後も県民や千葉県について知ってもらいたい利用者の興味を起こさせるような努力を続けていただければ目標達成が継続するのではと考えます。
・ウェブアクセス数は、ウェブサイトからどのようなコンテンツや情報を入手したいかという点に着目するのが重要である。SNS発信だけに注力しても、ウェブサイトに魅力的かつ有益なコンテンツや情報がなければ、アクセスをしてもらえないのは自明である。利用者が、ウェブサイトに何を求め、アクセスするのかを分析し、ウェブサイトの充実とアクセス数向上に臨んでいただきたい。
・ウェブアクセスについては、研究、資料、普及啓発行事など、さまざまな側面からの発信が可能なので、労力はかかるが体制を整えて進められると良い。研究員には、千葉中央博らしいコンテンツの検討と充実を意識してほしい。海外への発信も可能と思われる。
・ウェブサイトについて、多様な人たちを迎え入れるための姿勢がみえにくく、その情報が少ない。

4．今後の活動方針

・引き続き、魅力的な特別展・企画展や季節展を企画し、千葉県民をはじめとする利用者の来館促進に努める。
・新たにターゲット分析や効果測定を含めたSNSプロモーションを検討するとともに、現行ウェブサイトの充実を図る。
・現状、ウェブサイトは限られたページのみの分析にとどまっているので、次期情報システムへの更新時に全面的な分析が実施できるようにする。
・広報に携わる職員だけでなく、館全体として中央博物館らしいコンテンツを検討し、発信できる体制を整える。
・ウェブサイトについて、バリアフリーを含む多様な利用者に配慮した、分かりやすいページの新規作成や更新を検討する。また、展示や講座等についても、この観点を踏まえた対応を検討する。

令和７年度　千葉県立中央博物館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業１）

重点事業　第１節　千葉の海の魅力を探り、国内外に発信

１．事業内容および実績

具体的な取組	取組内容	R7事業内容	R7実績
①千葉の海の魅力を探る 調査研究の推進と発信	○東京湾の変遷について自然・人文の連携による調査研究と成果の発信 ○千葉県における海藻利用について自然・人文の連携による調査研究と成果の発信 ○房総海岸部における動植物の調査研究と成果の発信 ○千葉の海の幸を自然誌の視点で紹介する展示の開催 ○深海生物についての調査研究と成果の発信 ○分館海の博物館における海の自然に関する調査研究と成果の発信	・重点研究「東京湾の変遷を探る」の研究及び資料収集、小冊子刊行 ・国立歴史民俗博物館と共同研究「千葉の海藻文化と東アジア（仮）」の研究及び資料収集 ・重点研究「房総海岸部における動植物」の予備調査、計画立案、準備 ・深海生物に関する研究及び資料収集 ・特別展「房総うみの幸大百科」開催 ・海の自然に関する調査研究と成果の発信 ・マリンサイエンスギャラリーの開催	・重点研究「東京湾の変遷を探る」に関する研究会を２回開催、小冊子「東京湾の変遷を探る vol. 1」を刊行 ・国立歴史民俗博物館と共同研究「千葉の海藻文化と東アジア（仮）」に関する研究会を３回、調査を２回実施 ・重点研究「房総海岸部における動植物」の来年度の調査研究に向け、メンバーの募集及び予算要求を実施 ・房総海岸部で化石・岩石資料等を収集 ・深海生物に関する原著論文4件、中央博だよりに1件公表 ・千葉の海の幸を自然誌の視点で紹介する特別展「房総うみの幸大百科－千葉の豊かな海と食文化－」を開催（7月12日～9月23日）入館者数20,244人 ・分館海の博物館において、常設展示部分更新及びマリンサイエンスギャラリー用の資料収集を実施 ・分館海の博物館において、県外資料収集（島根県）、県内資料収集（房総沿岸各地）を実施 ・マリンサイエンスギャラリー「うみ鳥っぷ２」を開催（12月13日～5月10日）３月末までの入館者数15,297人
②千葉の海をフィールドとした 観察会や見学会の開催	○房総の海辺の生物や地形等の観察会の開催 ○房総の海辺の文化等の見学会の開催 ○勝浦の磯を中心とした海洋生物等の観察会の開催	・房総の海辺の生物や地形等の観察会の開催 ・房総の海辺の文化等の見学会の開催 ・勝浦の磯を中心とした海洋生物等の観察会の開催	・房総の海辺や地形に関する観察会を6回実施（荒天のため3回中止）（本館） ・分館海の博物館において地元漁業者からの資料収集を実施 ・分館海の博物館において観察会を9回（荒天のため2回中止）、磯・いそ探検隊10回、野外実習授業20回、団体フィールドトリップ20回実施

２．評価指標の判定

取組内容	指標	過去実績		達成度・判定※（R7年度）				総合判定	目標値			備考
		(R5)	(R6)	目標値	実績値	達成度	判定		(R8)	(R9)	R10	
千葉の海の魅力を探る調査研究の推進と発信	展覧会で「千葉の海の魅力の理解が増した」と回答した参加者の割合	（新規）	（新規）	50%	96%	191%	A	A	60%	70%	**80%以上**	特別展アンケート結果
千葉の海をフィールドとした観察会や見学会の開催	千葉の海に関する講座・観察会、見学会の参加者数	346人	387人	360人	459人	128%	A		375人	385人	**400人**	本館：海に関する観察会 海博：観察会、磯・いそ探検隊

３．自己点検

・千葉の海の魅力を探る調査研究について、研究会、調査を着実に進めた。
・重点研究「東京湾の変遷を探る」に関する研究の成果をまとめた小冊子を刊行した。
・展覧会で「千葉の海の魅力の理解が増した」と回答した参加者数は目標値を大きく超えた。房総の海の幸に焦点を当て、郷土料理から生物を紹介するアプローチがこの結果につながった。
・千葉の海に関する講座、観察会、見学会も荒天による中止がいくつかあったものの、着実に実施し、目標値を大きく超えた。

４．有識者による評価

・研究の成果が小冊子や展示に活かされている点が高く評価できる。加えて、他機関との共同研究は博物館単独では難しい活動を展開するものであると考える。共同研究の一層の推進を期待する。
・小冊子「東京湾の変遷を探る vol. 1」については、本研究の新たな研究成果についても掲載するとよいのではないか。どこまでが既存の内容で、どこが本研究の新たな成果なのかが少しわかりにくかった。
・千葉県立中央博物館らしい取り組みであり、自然・人文の連携研究という点も高く評価できる。小冊子もコンパクトにまとまっており、わかりやすい内容になっている。
・特別展「房総うみの幸大百科」では、房総の海の幸を郷土料理から生物へと結びつける独創的な切り口が来館者の理解促進に大きく寄与し、目標値（50%）を大幅に上回る96%という成果に結実しており、企画の切り口の面白さや取り組みの質の高さがうかがえる。観察会・見学会も荒天による中止を補いつつ着実に実施し参加者数の目標を上回っており、両指標ともに自己点検の評価は妥当である。
・調査研究の発信について、特別展「房総うみの幸 大百科」やマリンサイエンスギャラリー「うみ鳥っぷ２」などは入館者数が前年度実績や目標数よりも大幅に増えており、成果があったと評価できる。特別展は親子連れをメインターゲットにしたことが入館者増の要因にあげられているが、こうした工夫が今後も期待される。
・観察会について、本館実施の観察会は予定の1/3が荒天などのために中止になっている。天候に左右されるのは致し方ないが、人気のあるプログラムと推察されるので予備日を確保するなどして、利用者の期待にそえるように進めることが望ましいように思う。
・地理的に海に取り囲まれた日本において、海の研究情報をわかりやすく提示し、利用者と共に学び深めて行けることは重要であり、今後も重点的に継続して欲しい分野。

５．今後の活動方針

・今後も、大学や他研究機関との共同研究を一層推進していく。
・研究成果を小冊子や展示で紹介する際は、既存知見と新たな研究成果を区別して分かるように努める。
・特別展・企画展の開催にあたっては、メインターゲットを意識して取り組む。
・屋外で実施する観察会や見学会については、予備日の設定や屋内・オンラインでの代替実施も検討する。また、人気の高い企画については、回数を増やして参加機会を広げることを検討する。
・自然・人文の連携による調査研究の成果を、学術論文のみならず一般県民向けにも分かりやすい形で継続的に発信し、千葉の海の魅力の県内外への波及を一層促進する。

令和７年度　千葉県立中央博物館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業２）

重点事業　第２節　世界とのつながりを意識した活動

１．事業内容および実績

具体的な取組	取組内容	R7事業内容	R7実績
①生物多様性等に関する研究の推進と発信	○県内各地（下総台地、房総海岸部、里山等）における動植物の調査研究と成果の発信 ○生態園における環境や動植物の生息状況等の継続的な調査研究と成果の発信	・重点研究「下総台地西部の自然」に関する調査研究及び資料収集 ・重点研究「房総海岸部における動植物」の予備調査、計画立案、準備【再掲】 ・「生態園」に関する展示やトピックス展の実施	・重点研究「下総台地西部の自然」について、印西市域の植物相の調査を実施した。今期は印西市の142区画の中20区画を調査した。これにより全体の70％にあたる100区画の調査が終了。 ・春の展示「房総のミニチュア「生態園」～日本初エコロジー・パークの35年～」（2月22日～6月8日）を開催（令和7年度入館者数11,216人） ・秋の展示「水辺の昆虫」（10月18日～12月21日）を開催（入館者数14,025人） ・生態園トピックス展「生態園からはじめる房総の自然観察」（2月1日から6月29日）を開催（令和7年度入館者数10,819人） ・生態園トピックス展「生態園のアブラムシ」（2月14日から5月31日）を開催（令和7年度入館者数3,665人） ・デジタルミュージアム「生態園の自然」において563件の生物に関する情報を発信 ・市民研究員との共同研究の成果として学会発表２件、論文1件 ・閉館日以外は、生態園内の動植物の巡回を実施するとともに、生態園管理班を組織し、生態園の管理体制を整えた
②世界の博物館等との連携・交流	○海外の博物館等との住民参加型の博物館活動を通じた交流事業の実施 ○海外の機関との研究等による交流	・海外博物館との連携にむけた準備、計画立案、研究等による交流	・イタリア・モンタルバーノ博物館の市民向けイベントでのプレゼンテーション（チバニアンGSSP関連）を実施 ・ベルリン自然史博物館（ドイツ）、国立自然史博物館（フランス）で資料調査を実施【分館海の博物館】 ・韓国木浦大学と海苔養殖についての研究会を実施
③ウェブサイト、展示等の多言語化	○博物館利用案内や展示案内などのウェブサイトの表現の平易化、英訳併記など ○デジタルミュージアムなどウェブコンテンツの表現の平易化、英訳併記など ○常設展示の解説パネル等の表現の平易化、英訳併記など ○展覧会の解説パネル等の表現の平易化、英訳併記など	・表現の平易化、多言語化に向けた事例調査 ・特別展の解説パネル当の表現の平易化、英訳併記など	・低年齢層への常設展示の見学補助プログラム「中央博調査隊」及び生態園で「森の調査隊」を実施（参加者数592名）。「中央博調査隊」についてはシートの内容更新・開発を検討。 ・音声ガイドのページに日本語解説に加え英語解説を作成 ・他館の調査を実施（63館） ・特別展において子供も楽しめるパネルおよび各大項目について英語の解説ページを作成し、展示室内のQRコードで検索できるようにした
④千葉県と世界のかかわりについての研究	○海外の学問やお茶、海藻など千葉県と世界の意外なかかわりについての調査研究と成果の発信	・「千葉の海藻文化と東アジア」に関する研究・資料収集【再掲】 ・海外から入ってきた学問「ちばの蘭学」に関する予備調査、計画立案 ・「千葉のお茶」に関する調査・研究及び資料収集	・海藻に関する研究会3回、調査2回を実施 ・千葉の蘭学に関して、県内調査１回、令和８年度からの共同研究に向けて打合せを実施 ・千葉のお茶に関する調査を２回実施

２．評価指標の判定

取組内容	指標	過去実績		達成度・判定※（R7年度）				総合判定	目標値			備考
		(R5)	(R6)	目標値	実績値	達成度	判定		(R8)	(R9)	R10	
生物多様性等に関する研究の推進と発信	展覧会で「生物多様性の理解が深まった」と感じた参加者の割合	（新規）	（新規）	50%	93%	186%	A	A	60%	70%	**80%以上**	秋の展示「水辺の昆虫」でアンケートを実施
世界の博物館等との連携・交流	展覧会で「千葉県と世界のかかわりへの理解が深まった」と感じた参加者の割合	（新規）	（新規）	50%	90%	181%	A		60%	70%	**80%以上**	企画展「生薬～自然から恵み～」でアンケートを実施
千葉県と世界のかかわりについての研究	海外博物館等との共同研究の数（累積）	0件	0 件	1件	1件	100%	A		１件	１件	**2件**	韓国木浦大学

３．自己点検

・生物多様性に関する研究の推進・発信については、重点研究及び生態園の展示・研究報告等着実に実施した。
・世界の博物館等との連携・交流については、講演会、研究会、資料調査等着実に実施した。
・ウェブサイト・展示等の多言語化については、常設展の音声ガイドをスマートフォンで聞くことができるよう見直すとともに、英文説明を追加した。
・千葉県と世界のかかわりについての研究については、研究会、調査を着実に実施した。
・評価指標についてはすべて目標値を上回った。

４．有識者による評価

・地域調査や市民研究員との共同研究成果発表など、地域に根差しながら専門的研究を進められていることを高く評価したい。また、海外博物館との共同事業も実施できている点を評価する。
・生物多様性に関する重点研究や生態園の展示・情報発信、海外博物館との交流、多言語化など、４つの取組をいずれも着実に実行した点を評価する。
・新規事業である生物多様性等に関する研究の推進・発信、および世界の博物館等との連携・交流は、今後の進展が期待できるスタートと評価できる。
・音声ガイドや解説ページなど、展覧会会場とウェブサイトを連動することは当たり前になりつつある。双方の特性を活かした連携を引き続き模索していただきたい。
・今後は、英語解説や音声ガイドの多言語対応を特定の展覧会にとどめず継続的に拡充するとともに、築いた海外機関とのネットワークを共同研究や交流事業へと発展させ、千葉県と世界とのつながりを県民に実感させる活動への展開を期待したい。
・世界の博物館との交流・連携については、取り組みは不十分と思われ、外部資金も活用し、海外からの招へいや国際会議の開催についても積極的に検討してほしい。
・ウェブサイトには、低年齢や知的に障害のある人たちも見据えた「やさしい日本語」のページが設けられていない。こうしたコンテンツを充実させていくことが、日本語に馴染みのない人たちへの対応ともなり得るはずである。
・世界の博物館との連携については、当館がそうした活動をしていることは将来の活動や次代の若者が成長して参加したいと思ってくれるなど、これからに繋がることなのでをぜひ広く一般の方にも知らせてアピールして欲しい。
・低年齢層への常設展示の見学補助プログラムの実施や音声ガイドの英語解説の追加など、着実に来館者サービスが向上していると考える。また、特別展において子供も楽しめるパネルの設置や各大項目の英語解説を作成し、展示室内のQRコードで検索できるようにする試みは、ぜひ常設展においても展開できる試金石にしていただきたい。

５．今後の活動方針

・今後も低年齢層向けの見学補助プログラムを継続して実施するとともに、各展示において分かりやすいパネルの作成に努める。
・令和7年度は、QRコードを用いてスマートフォンで聴取できる常設展示室の音声ガイドを30件更新した。今年度も、同程度の件数の更新を予定している。
・低年齢層や知的障害のある方を対象とした「やさしい日本語」ページについては、他館の取組状況を調査し、検討を進める。
・引き続き、海外機関とのネットワークを充実させ、共同研究や交流事業へ結び付けていくように努める。
・外部資金を活用した海外機関との交流・連携や海外研究者の招へい、国際会議の開催について検討する。
・海外機関と連携して実施した事業や共同研究については、SNS等を活用して積極的に情報発信を行う。

令和７年度　千葉県立中央博物館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業３）

重点事業　第３節　他機関との連携強化

１．事業内容および実績

具体的な取組	取組内容	R7事業内容	R7実績
①様々な主体との連携	○君津市立清和小学校等の県内各地の様々な主体と連携したフィールド・ミュージアム事業（観察会や見学会）の実施 ○県内各地の自然や歴史、文化の地域資源情報を盛り込んだ観察ガイドマップの作成 ○市町村や団体等が県内各地で実施する観察会などの野外における博物館活動等の情報集約・公開 ○様々な主体による観光イベントや広報媒体との連携による千葉の「おもしろい」の発信	・フィールド・ミュージアム事業の実施（重点地区：北総） ・観察ガイドマップの作成（重点地区：上総臨海） ・関係団体との調整、サイト準備	・教室博物館24日、観察会4回（うち清和県民の森での観察会２回）、出前授業３回実施 ・清和地区文化祭に参加 ・フィールド・ミュージアム広報誌「しいむじな」89号、90号、91号、92号を刊行 ・「自然と文化　案内帖」の第３号を公開
②青葉の森公園周辺施設との連携強化	○青葉の森公園内で実施されるイベント等への参画 ○周辺施設と連携した展覧会や公園で１日すごせるプログラムの実施 ○展覧会やレファレンスサービス等における県立中央図書館との連携の実施	・イベント等への参加 ・公園で一日過ごせるプログラムの内容検討 ・「海の幸」等をテーマにした中央図書館との連携	・「あおばmini★miniまつり2025」に出展（参加者数210人） ・「あおばまつり2025秋」に出展（参加者数406人） ・あおば祭りへの出展を通じて公園管理センターとの関係構築 ・青葉の森芸術文化ホールでの巡回展示の実施 ・特別展関連イベントとして中央図書館と連携し、講演会（参加者数112人）、絵本読み聞かせ（参加者数17人）を実施
③博物館や研究機関等との連携強化	○国立歴史民俗博物館との共同研究や展示、講座、広報活動の実施 ○東京大学千葉演習林との共同研究や講座・観察会等の共催 ○千葉の自然と歴史、文化等に関する市町村立博物館職員等との共同研究等の実施 ○当館主催の共同研究に参画する研究員制度の整備	・国立歴史民俗博物館と共同研究「千葉の海藻文化と東アジア（仮）」の研究及び資料収集【再掲】 ・国立歴史民俗博物館との広報活動連携 ・東京大学千葉演習林との共同研究の実施、講座、観察会の共同開催 ・重点研究「東京湾の変遷を探る」の研究及び資料収集、小冊子刊行【再掲】	・国立歴史民俗博物館との共同研究「千葉の海藻文化と東アジア」に関して、研究会３回、調査２回を実施 ・歴博主催共同研究に参画し、学術書１冊発行 ・歴博との広報活動連携としてスタンプラリーを開催（8月1日～9月28日）（参加者数4,742人） ・東大千葉演習林との連携事業として観察会2件（参加者数34人）を実施 ・東大千葉演習林において、共同研究3件の調査を実施 ・改正市民研究員制度のもと市民研究員80人が活動、新規登録申請を随時受付 ・重点研究「東京湾の変遷を探る」に関する小冊子刊行

２．評価指標の判定

取組内容	指標	過去実績		達成度・判定※（R7年度）				総合判定	目標値			備考
		(R5)	(R6)	目標値	実績値	達成度	判定		(R8)	(R9)	R10	
様々な主体との連携	様々な主体との連携数	7件	7件	8件	6件	75%	C	B	9件	10件	**11件**	
青葉の森公園周辺施設との連携強化	青葉の森周辺施設と共同で実施した事業数	0 件	0 件	1件	5件	500%	A		1 件	2 件	**3 件**	
博物館や研究機関等との連携強化	他の博物館や研究機関等と共同で実施した事業への参加者数	0 人	123人	250人	4,776人	1,910%	A		500人	750人	**1,000人**	

３．自己点検

・様々な主体との連携については、フィールド・ミュージアムの観察会、観察マップの作成等着実に実施した。
・青葉の森公園周辺施設との連携強化については、あおばまつりへの出展、芸術文化ホールでの巡回展示、中央図書館との連携イベントを実施した。
・博物館や連携機関等との連携強化については、国立歴史民俗博物館との共同研究・広報活動連携、東大千葉演習林における共同研究を着実に実施した。目標値を大きく上回ったのは、歴博とのスタンプラリーによる。

４．有識者による評価

・様々な主体との連携数において、学校への出前講座が低調である。7年度は8校の実績とされ、前年度の6校より増えているが、県立の基幹館である当該館の規模からするとかなり低い数値である。ウェブサイトには出前講座の案内がみられず、そこから改善していくべきではないか。
・様々な主体との連携が７５％なのは残念だが、他団体との連携には相当の労力が必要で、予算、時間、そして何より人材が潤沢でないと難しいと想像する。職員体制やシステムからも洗い出した目標設定になっているかもチェックする必要があるのでは。
・連携事業をおこなった主体が多様であることを高く評価したい。学校や文化ホール、図書館などは関係する機能部分が多いため連携の接点を比較的見つけやすいと考えるが、イベントへの出展は開催主体との協議で難しい部分もあろう。しかし、そのような場にこそ、普段、博物館に縁遠い方が参加されていることがあるので、積極的に連携事業を進めていただきたい。
・スタンプラリーはやり方によってはスタンプの収集だけに夢中になり、肝心のミュージアム体験に結びつかない例も少なくない。スタンプラリーを入り口として内実のある展示・学習体験へと誘導できたのかも点検をするとなお良い。
・周辺で計画される新千葉県立図書館・県文書館複合施設の整備も見据え、立地特性を活かした連携の一層の発展を期待する。
・県内各地の様々な主体と連携したフィールド・ミュージアム事業を数多く実施し、また、フィールド・ミュージアム広報誌「しいむじな」を4号分の刊行、「自然と文化　案内帖」の第３号を公開するなど、活発な活動を展開している。なお、目標値を達成できていないことは残念ではあるが、こうした事業は数をこなすことを第1とせず、いかに来場者に満足してもらったかが重要ではないかと考える
・博物館や研究機関との連携については、共に共同研究を行った成果を広く紹介するような、研究と連動した講座や観察会を今後実施していけるとよい。

５．今後の活動方針

・令和6年度に設置された地域連携課を中心に、様々な主体との連携の推進を図る。
・国立歴史民俗博物館とのスタンプラリーは令和8年度も実施する。スタンプラリーは、常設展示の展示物を確認し、キーワードを集めた後でスタンプを押印する方式とし、常設展示への誘導を図る。
・博物館や研究機関との共同研究の成果を発信する特別展や企画展、講座、観察会の実施を検討する。
・現在、出前講座は講師派遣事業として実施している。自己点検票との名称の統一を図るとともに、ウェブサイト上での分かりやすい案内についても検討する。

令和７年度　千葉県立中央博物館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業４）

重点事業　第４節　デジタル技術の活用

１．事業内容および実績

具体的な取組	取組内容	R7事業内容	R7実績
①博物館資料情報のデジタル化とウェブコンテンツの充実	○高精細画像や３Ｄ画像などの取得による博物館資料情報のデジタル化と公開 ○デジタルミュージアム等におけるウェブコンテンツの充実 ○ウェブサイトのリニューアルや収蔵資料データベースの拡充等、システム環境の整備 ○デジタルデータ公開に係るポリシーの見直し（R7年度）	・デジタル化（高精細画像化、３Ｄ画像化、写真フィルムのスキャニング等）、公開 ・デジタルミュージアムの充実（地学関連） ・システム環境の検討 ・データ公開ポリシーの見直し	・資料データベースで55,223件の画像を公開 ・地学展示室の３Dデータを作成 ・３D化に関する自然誌シンポジウム開催（参加者数対面17人、オンライン60人） ・デジタルミュージアム「チバニアン期の化石」を準備中 ・デジタルデータ公開ポリシー改定案を作成
②外部システムとの連携	○国際的なネットワークとの連携（地球規模生物多様性情報機構（GBIF）、国際塩基配列データベース（INSD）） ○国内のプラットホームとの連携構築（ジャパンサーチ、文化遺産オンライン、J-STAGE） ○研究者間の交流促進（researchmapとの連携・拡充）	・GBIF、INSDへの情報提供・連携継続 ・ジャパンサーチ、J-STAGEとの連携検討 ・researchmapとの連携拡充	・GBIFへ255,379点情報提供 ・DNA配列をINSDへ254点登録 ・ジャパンサーチとの連携に向けて、先方とZOOMによる会議を実施。現在の当館のシステムスペックでは連携できる数は限定的であることがわかった ・researchmapに研究系職員は全員登録済・各自更新
③オンラインによる行事の実施	○オンラインによる自然と歴史、文化に関する講座や講演会等の実施 ○オンラインによる海外の機関とのシンポジウム等の共同開催	・講座、観察会等のオンライン配信	・オンラインでの講座等の開催回数7回（本館：6回、海博：１回） ・自然誌シンポジウムをオンラインで開催（オンライン参加者数60人）
④展示等におけるデジタル技術の活用	○高精細画像や３Ｄ画像などのデジタル化した博物館資料情報を展示等に活用 ○SNS等を活用した研究成果等の迅速な発信	・事例調査	・３Dデータをもとに製作した白亜紀シロアリコプロライト模型を常設展示で公開及び「X」への投稿を実施 ・関連学会へ参加・発表５件、論文１件公表

２．評価指標の判定

取組内容	指標	過去実績		達成度・判定※（R7年度）				総合判定	目標値			備考
		(R5)	(R6)	目標値	実績値	達成度	判定		(R8)	(R9)	R10	
博物館資料情報のデジタル化とウェブコンテンツの充実	デジタルミュージアム各コンテンツへのアクセス件数	~~25,647件~~ -	4,379件	5,000件	5,260件	105%	A	B	~~45,000件~~ 6,000件	~~52,500件~~ 7,000件	**~~60,000件~~ 8,000件**	デジタルミュージアム各コンテンツの合計アクセス件数 目標値に設定していたものはデジタルミュージアムのトップページの値であったため修正。目標値は昨年度の値をもとに設定。
展示等におけるデジタル技術の活用	ＳＮＳ等による研究成果の発信数	16件	10件	19件	11件	58%	C		22件	26件	**31件**	論文発表プレスリリースに関するSNS発信数

３．　自己点検

・取組①に関しては、資料データベースでの画像公開、３Dデータに関するシンポジウム、デジタルデータ公開ポリシー改定案の策定等、着実に実施した。
・取組②に関しては、GBIFやINSDへの情報提供を着実に実施した。一方でジャパンサーチとの連携については今後も検討していく必要がある。
・取組③に関しては、オンラインによる講座・シンポジウムを着実に実施した。引き続きオンラインの活用を図る。
・取組④に関しては、３Dデータをもとに作成した模型を常設展示に活用するとともに、SNSで情報を公開する等、着実に実施した。
・デジタルミュージアムのアクセス件数は昨年度実績および目標値を上回った。新規コンテンツの追加に加え、これまでにあまり実施してこなかったSNS等での広報に力を入れ、アクセス件数の増加につなげる。
・SNS等による研究成果の発信数については、目標値を下回った。今後より積極的な発信に力を入れ目標達成を図る。

４．有識者による評価

・オンライン講座についても参加者数が多く、人々の関心が高いように思われる。オンラインならではの講座の在り方などを模索し、活用を図っていただきたい。
・資料データベースでの画像公開件数やGBIFへの情報提供点数など、資料情報の公開が着実に進められていると評価する。あわせて、デジタルデータ公開ポリシーの改訂に取り組み、現在の研究情勢への適応をはかっている点も評価できる。
・資料情報のデジタル化や外部との連携は進んでいると評価できる。ただし、生物分野（GBIFやDNAなど）が多いため、他分野での取り組みも進むと良いと思う。
・博物館資料情報のデジタル化とウェブコンテンツの充実は、資料データベースでの画像公開や地学展示室の３Dデータの作成、３D化に関する自然誌シンポジウム開催、デジタルミュージアム「チバニアン期の化石」を準備、デジタルデータ公開ポリシー改定案に着手するなど幅広い活動が展開できている。とくに、デジタルデータ公開ポリシー改定は、これからの博物館における情報発信として様々な可能性をもつデジタルデータの取り扱いに関係するものであり、重要な作業になると考える。
・SNS等による研究成果の発信数は目標19件に対し11件とのことだが、SNSは研究成果を広く届けるとともにデジタルミュージアムへの来訪を促す入り口でもあり、今後、より積極的かつ計画的な発信の強化を期待したい。また、ジャパンサーチとの連携について現行システムの仕様上の制約が明らかになったことは課題の所在を明確にした前進であり、今後のウェブサイトリニューアルやシステム環境整備の中で対応を図ることが望まれる。
・DXは着実に推進していると見受けられるが、広報同様SNSの発信が不十分であるのは、組織的な構造と思われ、研究とは別に全館的な広報体制の構築が急務と思われる。

５．今後の活動方針

・オンライン講座のあり方については、これまでの経験を踏まえて、更なる活用を図る。
・生物分野以外の部分の資料情報のデジタル化については、古写真や絵はがきのデジタル化を中心に進める。外部との連携については、引き続き、検討していく。
・引き続き、展示物や収蔵資料の３Dデータ化と、その成果の展示への還元を進める。
・SNS等による研究成果の発信数が少なかったのは、プレスリリースを中心としていたためである。今後はプレスリリース以外の手法も活用し、幅広く研究成果を発信する
・SNSの発信が不十分である点について、館全体が認識を共有し、研究員一人一人が情報発信を意識する。

令和７年度　千葉県立中央博物館実施計画 外部評価用自己点検票（重点事業５）

重点事業　第５節　資料を未来に引き継ぐ

１．事業内容および実績

具体的な取組	取組内容	R7事業内容	R7実績
①収集資料の標本化・整理作業及び登録の推進、地域館資料の集約・保管	○収集資料の標本化・整理・修復作業の推進 ○収蔵資料データベースへの登録の推進 ○大利根分館、大多喜城分館の資料集約・保管	・継続的な標本化、整理、修復作業等 ・継続的な資料データベース登録 ・大利根分館での資料保管・活用 ・大多喜城分館の資料確認、移動	・本年度資料の受入件数29,831件（本館：28,477件、海博：1,354件） ・本年度資料データベース登録点数16,325点（本館：15,343点、海博：982点） ・大利根分館から県指定・国登録の資料を本館に移動
②資料管理体制の強化	○総合的有害生物管理の手法や定期的な温湿度モニタリング等による収蔵資料の管理体制強化 ○資料保存に関する外部研修会等への参加による職員のスキルアップ	・IPM手法や温湿度のモニタリング等による収蔵庫管理 ・職員の外部研修等への参加（年２人）	・岩石資料のアルコール洗浄を実施 ・年4回のトラップ調査を実施 ・国立民族学博物館教員によるIPMの全職員向け研修の実施
③資料救済ネットワーク拠点機能の強化	○「博物館資料救済システム」のセンター館として災害発生時の情報集約、平時の情報伝達訓練や研修等を実施 ○県内各地の博物館や地域に所在する資料情報の集約 ○自然史系標本セーフティネット、歴史資料ネットワークなどと連携した全国規模の資料救済 ○地域継承が困難な資料に関する相談受付 ○寄託・寄贈資料の積極的な受入れ	・県内各地の資料情報の集約（重点地区：ベイエリア） ・自然史系標本セーフティーネット等との連携検討 ・地域継承が困難な資料に関する相談体制の検討・構築	・北総資料ネットとの連携を実施 ・学校に残されている資料の調査方法ついて検討、統合が予定される小学校２校に保存されている資料の調査を実施 ・化石コレクションの寄贈受入れ準備中 ・県立高校全校を対象として、学校に保管されている自然誌標本のアンケートを実施 ・木更津高校所蔵の自然誌標本の実態調査を実施 ・大網白里町の神社において、絵馬の保存方法などについてアドバイスを実施 ・展示施設を改修中の香取神宮から県指定文化財の寄託を受けた ・郷土玩具のコレクションの調査を実施

２．評価指標の判定

取組内容	指標	過去実績		達成度・判定※（R7年度）				総合判定	目標値			備考
		(R5)	(R6)	目標値	実績値	達成度	判定		(R8)	(R9)	R10	
収集資料の標本化・整理作業及び登録の推進、地域館資料の集約・保管	資料データベースへの登録点数（累積）	504,902点	510,441件	525,000件	526,766件	100%	A	A	550,000件	575,000件	**600,000点**	令和8年4月1日時点
資料管理体制の強化	収蔵資料の事故による破損件数	0件	0件	発生させない	発生していない	100%	A		発生させない	発生させない	**発生させない**	虫害痕が確認された資料あり※
資料救済ネットワーク拠点機能の強化	県内外の資料ネットワークとの連携数	0件	0件	1件	1件	100%	A		２件	３件	**４件**	北総資料ネットとの連携

※収蔵資料の点検の結果、虫害痕が確認された資料については、速やかに対応済み。（８４９件）

３．自己点検

・取組①に関しては、資料登録、大利根分館・大多喜城分館からの資料の移動等着実に進んでいる。
・取組②に関しては、4回のトラップ調査を実施するとともに、収蔵資料の点検を実施し、虫損痕がみられる資料の把握に努めた。
・取組③に関しては、北総資料ネットとの連携に加え、県内各施設の資料調査、香取神宮からの県指定文化財の寄託等着実に実施した。

４．有識者による評価

・・着実な資料調査とデータベースへの登録が続けられている。膨大な資料に対して、それらの調査は一朝一夕で為せるものではないため、目標値を定めての不断の活動が重要である。このペースを保ち、適切な資料調査を積み重ねていただきたい。
・北総資料ネットとの連携を実施したことは、大きな一歩であると評価する。加えて、学校所蔵資料群についても調査を実施するなど、資料救済の地域拠点としての役割が確立しつつあると考え、評価できる。各所で資料管理保存の担い手が減少している中、これらネットワークの強化と活動は益々重要になってくるので、本重点事業に期待する部分は大きい。
統合が予定される小学校2校の保存資料の調査や、県立高校全校を対象とした自然誌標本のアンケート・木更津高校の実態調査など、学校に残された資料の把握に踏み出した取組は注目すべき活動。少子化に伴う小中学校の統廃合は今後全国的に増加が見込まれ、統廃合校に保管された自然誌標本や郷土資料等の文化資源をいかに散逸させずに次世代へ引き継ぐかは、地域の博物館が担う領域となるのではないか。本年度に着手した調査方法の検討を、県内のモデルとなる仕組みへと発展させていくことを期待したい。
・「収集資料の標本化・整理作業及び登録の推進、地域館資料の集約・保管」、また「資料管理体制の強化」は適切に取り組まれている。虫害痕確認資料に対しても迅速に対応されており、評価できる。
・「資料救済ネットワーク拠点機能の強化」について、千葉県の博物館資料救済システムのセンター館の役割を担っているため、県内各地の資料情報の集約や地域継承が困難な資料に関する相談体制の構築を、より積極的に進めてほしい。
・資料管理体制の強化において、文化財IPMの導入を進める動きが見られるなど、今後の資料管理の強化が期待できる。
・資料救済ネットワーク拠点機能の強化において、多様な活動を展開している。とくに自然史資料や歴史資料を巡る連携活動は、千葉県の博物館拠点となる千葉中央博物館の役割を十分に果たしたものと考える。

５．今後の活動方針

・引き続き、着実な資料調査とデータベースへの登録を進める。
・令和8年度以降も年4回のトラップ調査を継続するとともに、収蔵資料の点検を実施し、虫損痕がみられる資料の把握に努める。
・資料救済ネットワーク拠点機能の強化に向け、千葉県博物館協会と連携し、県内各地の資料情報の集約及び地域継承が困難な資料に関する相談体制の構築を進める。

令和７年度　千葉県立中央博物館実施計画 外部評価用自己点検票（基盤事業）

基盤事業の評価指標

１．判定

指標	過去実績		達成度・判定※（R7年度）				総合判定	目標値			備考
	(R5)	(R6)	目標値	実績値	達成度	判定		(R8)	(R9)	R10	
資料の利用件数	199点	236件	208件	121件	58.2%	C	B	218件	228件	**238件**	本館：88件 海博：33件
学術著作の発表数	107件	68件	112件	112件	100.0%	A		119件	124件	**130件**	本館：93件 海博：19件
外部資金等を活用した研究件数	30件	24件	27件	20件	74.1%	C		30件	33件	**36件**	本館：13件 海博：7件
講座・観察会、見学会の参加者数	2,085人	1,503人	1,750人	1,749人	99.9%	B		2,000人	2,250人	**2,500人**	本館：1,350人 海博：399人
レファレンスサービス対応件数	3,669件	3,486件	3,800件	4,131件	108.7%	A		4,000件	4,200件	**4,400件**	本館：4,054件 海博：77件

２．自己点検

・資料の利用件数については、目標値、前年度実績ともに下回った。資料データベースの公開を引続き進め、利用を促す。
・学術著作の発表数については、目標値に達した。
・外部資金等を活用した研究件数については、目標値を下回った。令和７年度は科研費申請件数24件であったものの新規採択件数は２件と採択数が少なかった。
・講座・観察会、見学会の参加者数は、目標値とほぼ同じであった。今後も、開催される講座・観察会、見学会についてSNS等を用いた周知を実施する。
・レファレンスサービス対応件数については、目標値を上回った。

３．有識者による評価

・資料の利用については、資料利用を促すポイントがどこにあるのかを、利用種別ごとの分析を深めていただきたい。海博に比べて本館収蔵資料の利用件数が低調であると考える。そもそも資料発見に問題があるのか、資料利用の手続きが煩雑なのかなどを精査して、改善検討を進めていただきたい。
・資料の利用促進については、公開促進だけでなく利用価値の高い資料の収集と適切な整理と保存も重要であるため、その点の検討も必要と思われる。
・資料の利用件数に関しては、他館・他機関での予算の縮小や人材不足、物価高騰（輸送費等）などの用件が関係しているのが原因のひとつにあるとしたら、右肩上がりに増やすのは難しいのでは。
今後、リニューアルの大事業を同時進行で進めていくなかで、科研費を獲得し、研究活動の強化・増大を図るのは難しいかもしれない。
・外部資金の獲得が不十分であるのは、これからの時代研究の推進が極めて厳しくなることが予想されることから、館全体の取り組みとして寄附金や科研費の獲得等について検討することが急務と思われる。
・外部資金等を活用した研究件数が目標値を下回り、新規採択も2件と少なく、過去2年と比べても低下が著しい。その理由をどのように分析しているのか。研究を後押しする環境整備が必要なのではないか。
・科研について24件の申請中、採択が2件というのは申請書の書き方、テーマ設定も含めて、学芸員全員で分析する必要があると考える。一方で、24件の申請を出したことは評価できる。
・レファレンスサービスは、データとして集計している館は少ないが、博物館がどれだけ地域の人々に意識され信頼されているのかの指標にもなるので、継続してモニタリングしていくとよい。

５．今後の活動方針

・資料の利用について、利用目的や資料の種類による傾向の違いを把握するとともに、利用方法や手続きについても精査する。
・資料の利用促進に加え、利用価値の高い資料の収集、適切な整理・保存についても検討する。
・科研費をはじめとした外部資金の獲得に向け、研究員に対して積極的な申請を促す。
・科研費の採択に向け、採択された申請・テーマ等を館内で共有し、採択率の向上に努める。
・今後の博物館活動の基礎となる研究活動は、引き続き推進していく必要があるため、研究環境の改善について、館内で検討を進める。
・レファレンスサービスについては、引き続きモニタリングを行うとともに、来館（対面）、メール、電話等の件数を把握し、今後の対応に活用する。

※達成度・判定

1. 達成度:　実績値÷目標値×１００

2. 判定

達成度（数値達成度のめやす）		判定
達成	達成度≧100％	A
ほぼ達成	達成度≧80％	B
やや不十分	達成度≧50％	C
不十分	達成度＜50％	D

3. 総合判定　「判定のＡ～Ｄを４～１に置換したものの和」÷項目数をＡ～Ｄに置換。小数点以下は四捨五入

資料２－１

令和７年度自己点検結果の報告（現代産業科学館、関宿城博物館、房総のむら）

（説明資料）

千葉県立現代産業科学館

分類	大項目	中項目	小項目 上段：達成値 下段：目標値			値の説明	数値	達成状況	総合評価	備考	総合評価
II	入館者数と来館者の満足度	来館状況	1	博物館	入館者数	令和７年度実績	140,863人	3	B	令和6年度は開館30周年イベント等の影響により5年度に比べ来館者が増加したが、７年度については、周年イベント等がなく6年度比増は叶わなかった。	B
						前年度実績	144,004人				
			2	企画展（うみ・千葉めぐり）	入館者数	令和７年度実績	11,591人	3		前年度に比べ、中・高校生などキャリア形成を意識した内容にしたため、当館の入館者の多くを占める幼児・小学生には若干難しいものとなった。	
						前年度実績	12,967人				
			3	企画展（プラネタリウム上映会）	入館者数	令和７年度実績	15,563人	4		令和７年度は新作を上映したことにより、入館者数が増加。新作上映時に入館者が増える傾向は過去20年間同じである。	
						前年度実績	12,108人				
		総合的な満足度	8	企画展（うみ・千葉めぐり）	アンケート満足度「非常に満足」＋「満足」の割合	令和７年度実績	100%	4	A	体験的な展示物が多く好評だった。	
			9	プラネタリウム		令和７年度実績	89%	4		令和７年度の新作は好みが分かれるものとなった。	
III	財源の確保	入場料	1	入場料収入	達成率	令和７年度実績	116%	4	C	プラネタリウムが新作であり、特に８月の有料者が前年度に比べ増加した。	C
						館設定の目標	100%				
V	学校及び地域（関係団体）との連携・協働	学校との連携	1	学校利用受入	学校数	令和7年度実績	123校	4	A	学校団体等に対する広報を積極的行うとともに、教員のための博物館の日を活用した一斉下見などを開催したことにより、来館する団体数が増加した。	B
						前年度実績	103校				
			2		入館者数	令和７年度実績	8,687人	4			
						前年度実績	7,972人				
			4	博学連携（幼小中高への出前講座等）	学校数	令和7年度実績	41回	4		出張講座（出前講座）は利用団体の満足度が高く、口コミ等によって希望数が増加。また、教員の異動に伴い別の学校への周知が広がっている。なお、現状の職員数ではこれ以上の出張講座増への対応は難しい。	
						前年度実績	36回				
			5		利用者数	令和７年度実績	1,484人	4			
						前年度実績	1,336人				
VIII	観光資源としての活用	観光連携	1	県外来館団体入込		令和7年度実績	137団体	4	A	近隣の江戸川区、墨田区等の学校へ校外学習等で利用してもらえるように広報を行った成果と思われる。	A
						前年度実績	102団体				
			2	外国人来館入込		令和7年度実績	580人	4			
						前年度実績	421人				
VI	教育・普及活動	来館状況	4	産業学習in科学館	参加者数	令和７年度実績	344人	4	B	6/1 HANAP(養蜂業) 198名 2/21 東洋合成 149名（R６モノベエンジニアリング 106名 KDDI 162名） 食べもの関係は参加者増が見込める	B
						前年度実績	268人				
		総合的な満足度	9	産業学習in科学館	満足度「とっても良かった」＋「良かった」の割合	令和7 年度実績	90%	4	A	HANAP とっても60% 良かった32.5% 東洋合成 とっても73% 良かった14%	

千葉県立現代産業科学館

産業学習 in 科学館

合同会社ＨＡＮＡＰ（長生村）



養蜂所からの生中継で養蜂の様子を見学、養蜂道具・観察箱・巣箱・巣枠・ムダ巣・ミツロウ・パネルの展示、養蜂着を着ての記念撮影、はちみつの試食を実施。

東洋合成工業株式会社高浜油槽所（市川市）



油槽所からの生中継で質疑応答、ジオラマとドラム缶の展示、クロマトグラフ体験、タンクローリーの乗車体験を実施。

千葉県立関宿城博物館

分類	大項目	中項目	小項目 上段:達成値 下段:目標値			値の説明	数値	達成状況	総合評価	備考	総合評価
Ⅱ	入館者数と来館者の満足度	来館状況	1	博物館	入館者数	令和7年度実績	82,659人	3	B	目標値は「R3,R4,R5,R6実績の平均値=88707.8」から設定しているが、一昨年度の実績が94,515人なので、目標値も下がっている。	B
						館設定の目標	88,708人				
			2	企画展(関宿城に舞う鷹の羽～下総久世家～)	入館者数	令和7年度実績	13,482人	3		企画展では、開館30周年を記念して、企画展(関宿城に舞う鷹の羽～下総久世家～)と題して、関宿藩を最も長く治めた久世家にフォーカスし、老中を務め幕政の中枢を担いながら藩政に意を払い、どのように藩士領民を守ってきたのか紹介した。企画展のアンケートによる満足度調査では、9割以上が満足という良好な結果を得ている。	
						館設定の目標	14,751人				
			3	トピックス展等	入館者数	令和7年度実績	**84,349人**	4		パネル展、昔のくらし展、絵画コンクール、百景写真展などのトピックス展に関しては、一昨年度は、75,208人だったので、約10,000人弱の増加となった。	
						館設定の目標	69,510人			R3,R4,R5,R6実績の平均値=69510.25	
Ⅳ	広報活動の積極的な展開	広報情報発信	1	HP等の情報発信	アップ数	令和7年度実績	260回	4	A	HPのデータアップロード回数は、増加した。開館30周年記念ということもあり、取材対応件数も増え、館への注目度が高まった。	A
						館設定の目標	258回				
			2	HPでの利用状況	アクセス数	令和7年度実績	58,500件	4			
						館設定の目標	53,241件				
			3	報道機関への情報発信	取材対応件数	令和7年度実績	15件	4			
						館設定の目標	11件				
Ⅴ	様々な主体との連携・協働	様々な主体との連携・協働(学校以外)	6	様々な主体との連携・協働	団体数	令和7年度実績	2団体	4	A	利用団体は目標値と同様の数であるので「達成状況は4」。一昨年度の1団体と比較すれば、増加といえるが、更なる連携ができればと考える。利用者数に関しては一昨年度が26人だったので、大幅な増加といえる。　一方、学校利用の受入れ数は減少傾向にある。令和8年度から野田市は、各学校各学年につき1回しか市バスが使えない。これまで市内巡りで中学年が来館することが多くあったが、市役所や消防署、ごみや水の行方について学ぶごみ処理場、浄水場は野田市の西部から南部地区に集中しており、北部地区である当館を利用することは難しい。よって、令和8年度は更なる減少が予想される。友の会の活動は例年どおりであった。大学やNPO等との連携・共催の事業はあまり行うことができなかった。	A
						館設定の目標	2団体				
			7		利用回数	令和7年度実績	2回	2			
						館設定の目標	3回				
			8		利用者数	令和7年度実績	112人	4			
						館設定の目標	80人				
			9	友の会活動	利用人数	令和7年度実績	113人	4			
						館設定の目標	105人				
			10	ボランティア活動	のべ活動人数	令和7年度実績	175人	4			
						館設定の目標	163人			R3,R4,R5,R6実績の平均値=163.45	

千葉県立房総のむら

分類	大項目	中項目	小項目					達成状況	総合評価	説明	総合評価
				上段：達成値　下段：目標値		値の説明	数値				
II	入館者数と来館者の満足度	来館状況	1	博物館	入館者数	令和７年度実績	159,884人	4	B	夏の酷暑等,屋外型博物館のため天候等の理由により来館者数が微減した。	B
						昨年度実績	161,324人				
IV	広報活動の積極的な展開	広報情報発信	1	HP等の情報発信	アップ数	令和７年度実績	682回	4	A	X(旧ツイッター)やインスタグラムによる情報発信に努めた。	A
						昨年度実績	662回				
			2	HPでの利用状況	アクセス数	令和７年度実績	303,146件	4		まつり等大型イベントの際にアクセス数が増加している。	
						昨年度実績	296,408件				
			3	報道機関への情報発信	取材件数	令和７年度実績	22件	4			
						昨年度実績	21件				
V	学校及び地域(関係団体)との連携・協働	学校との連携	1	学校利用受入	学校数	令和７年度実績	258校	4	A	少子化の影響や,屋外型博物館のため天候等の理由により来館者数が微減した。	A
						昨年度実績	263校				
			3	生徒・児童	入館者数	令和７年度実績	13,776人	4			
						昨年度実績	14,013人				
VI	教育・普及活動	来館状況	5	体験教室・団体体験	参加者数	令和７年度実績	18,013人	4	B	体験者数等の減少について、体験メニューの見直しなどに取り組んでいる。	A
						昨年度実績	19,547人				
			7	体験数	参加者数	令和７年度実績	87,920人	4	A		
						昨年度実績	102,382人				
VIII	観光資源としての活用	観光連携	2	外国人来館入込	入館者数	令和７年度実績	5,537人	4	A		A
						昨年度実績	4,426人				
IX	ICTの活用	ICTの活用	1	デジタルミュージアム等のコンテンツの作成・整備	制作数	令和７年度実績	2件	4	B		B
						昨年度実績	2件				
			4	デジタル・デバイド解消のための対策	実施回数	令和７年度実績	0回	1		令和５年度は２個所のWi-Fiポイントを新設したが、６年度以降は対応できていない	
						昨年度実績	0回				

千葉県立博物館の事業に係る自己評価票（令和７年度事業：現代産業科学館）

達成度（数値達成度のめやす）		自己評価	総合評価
達成	目標値≧100％	4	A
ほぼ達成	目標値≧80％	3	B
やや不十分	目標値≧50％	2	C
不十分	目標値＜50％	1	D

満足度欄の達成度		自己評価
達成	達成値≧75％	4
ほぼ達成	達成値≧65％	3
やや不十分	達成値≧50％	2
不十分	達成値＜50％	1

分類	大項目	中項目	小項目 上段：達成値　下段：目標値			値の説明	数値	達成状況	総合評価	備考
Ⅰ	収蔵資料の整理・保存有効活用・調査研究	収蔵資料	1	博物館資料の受入等		令和７年度実績	0件	1	C	寄贈資料累計：1,790件
						前年度実績	1件			
			2	資料の情報化・公開実績		令和７年度実績	３点	4		資料の公開累計：3,402点 情報化：100％ 公開：著作権等の理由から非公開としている資料を除き100％
						前年度実績	0点			
			3	資料の保守・管理の実施		令和７年度実績	52回	4		定例で行う週１回の展示室・収蔵庫の温湿度及び資料状況の確認。 ※体験装置を多数設置しているため、その他メンテナンスや点検・修繕は対象外。
						館設定の目標	52回			
		収蔵資料の有効活用	4	館外貸出（外部機関等展示等）		令和７年度実績	5件	4	A	
						前年度実績	0件			
			5	館内利用（学術調査等）		令和７年度実績	1件	4		
						前年度実績	0件			
			6	著作物資料への利用（出版物掲載等）		令和７年度実績	8件	4		
						前年度実績	5件			
		調査研究	7	調査事業件数	件数	令和７年度実績	17件	4	C	「100選」8件（累計：97件）、その他令和7年度企画展、令和8年度企画展に係る調査等
						前年度実績	17件			
			8	共同調査事業件数	件数	令和７年度実績	0件	1		
						前年度実績	0件			
			9	研究成果の公開状況	論文研究報告	令和７年度実績	2件	4		
						前年度実績	2件			
大項目Ⅰの総合評価（A～D）								B		
博物館コメント	・「伝えたい千葉の産業技術100選」と題し、千葉県における歴史的産業技術を次世代へ継承することを目的として、調査研究を継続しており、認定数97件となった。引き続き調査、認定を進め、周知に努める。 ・展示資料を適切に維持管理することにより、実験装置等の稼働率を向上させた。今後も利用者の満足度を高めるよう努める。									

Ⅱ	**入館者数と来館者の満足度**	来館状況	1	博物館	入館者数	令和７年度実績	140,863人	3	B	
						前年度実績	144,004人			
			2	企画展（うみ・千葉めぐり）	入館者数	令和７年度実績	11,591人	3		
						前年度実績	12,967人			
			3	企画展 プラネタリウム上映会	入館者数	令和７年度実績	15,563人	4		
						前年度実績	12,108人			
		展示の充実	4	常設展示	更新回数	令和７年度実績	7回	4	A	
						前年度実績	6回			
			5	企画展（うみ・千葉めぐり）	実施回数	令和７年度実績	1回	4		
						前年度実績	1回			
			6	企画展（プラネタリウム）	実施回数	令和７年度実績	1回	4		
						前年度実績	1回			
			7	トピックス展等	実施回数	令和７年度実績	35回	4		
						前年度実績	35回			
		総合的な満足度	8	常設展示	アンケート満足度 「非常に満足」＋「満足」の割合	令和７年度実績			A	
			9	企画展（うみ・千葉めぐり）		令和７年度実績	100%	4		
			10	企画展 プラネタリウム上映会		令和７年度実績	89%	4		
			11	トピックス展等		令和７年度実績				
大項目Ⅱの総合評価（A～D）								**B**		
博物館コメント	・海に関わる産業や職人の技術、海とのかかわり方の紹介をコンセプトとし、来館者に海に対する見方の再発見や産業への理解、技術の体験などを促すことを目指し、企画展「うみ・千葉めぐり～魅力あふれる海の仕事～」を開催した。展示は体験できるもの、実際に触れられるものを多く展示し、より身近に感じられるようにしたほか、キャリア教育の一環として結びつけられるよう工夫した。前年度は企画展がテレビで取り上げられたが、令和7年度はその機会にめぐまれなかったこともあり、入場者数は前年度に及ばなかったものの、アンケートでは、「満足」と「まあまあ満足」を合わせて100％となり、実際に触れて体験できる資料を数多く展示したことで、来館者の満足度は高かった。 ・プラネタリウム上映会は新作品「MEGASTARを生んだ星空」をはじめ３作品を上映した。「MEGASTARを生んだ星空」では、MEGASTAR（プラネタリウム投影機）が生まれた原点であるオーストラリアの美しい星空を紹介したことで満足度は高く、多くの来館者があった。									
Ⅲ	**財源の確保**	入場料	1	入場料収入	達成率	令和７年度実績	116%	4	C	令和７年度実績：12,747,210円 館設定の目標：11,027,000円（令和７年度当初予算）
						館設定の目標	100%			
		外部資金等	2	外部資金等の獲得	件数	令和７年度実績	30件	2		R7企画展15＋展・運（展示会14　特設1） R６企画展23＋展・運（展示会14、特設2）金銭的な支援だけでなく、物的な支援を含む
						前年度実績	39件			
大項目Ⅲの総合評価（A～D）								**C**		
博物館コメント	・入館者数は減少したが、プラネタリウム上映期間中に有料入場者が増えたことにより、入場料収入は、設定目標をクリアすることができた。 ・外部資金については、海の学びミュージアムサポートの助成金（200万円）を獲得することができ、充実した企画展を開催することができた。									

Ⅳ	広報活動の積極的な展開	広報情報発信	1	HP等の情報発信	アップ数	令和７年度実績	159回	4	C	
						前年度実績	139回			
			2	HPの利用状況	アクセス数	令和7年度実績	207,018件	3		
						前年度実績	226,969件			
			3	報道機関への情報発信	取材記事掲載又は放送件数件数	令和7年度実績	9件	2		
						前年度実績	18件			
大項目Ⅳの総合評価（Ａ～D）								**C**		
博物館コメント	・報道等で掲載された件数のなかでは、プラネタリウムや企画展へのものが多かった。 ・広く一般に広報を行うために、ホームページへの更新につとめている。									
Ⅴ	学校及び地域（関係団体）との連携・協働	学校との連携	1	学校利用受入	学校数	令和7年度実績	123校	4	A	学校団体等に対する広報を積極的行うとともに、教員のための博物館の日を活用した一斉下見などを開催したことにより、団体数が増加
						前年度実績	103校			
			2		入館者数	令和７年度実績	8,687人	4		
						前年度実績	7,972人			
			3	生徒・児童	入館者数	令和７年度実績	8,650人	4		
						前年度実績	7,891人			
			4	博学連携（幼小中高への出前講座等）	学校数	令和7年度実績	41回	4		出張講座は利用団体の満足度が高く、口コミ等によって希望数が増加していると思われる。また、教員の異動に伴う周知の拡大。
						前年度実績	36回			
			5		利用者数	令和７年度実績	1484人	4		
						前年度実績	1336人			
		地域関係団体との連携	6	連携・共催（大学、NPO等）	団体数	令和7年度実績	27団体	4	B	
						前年度実績	23団体			
			7		利用回数	令和7年度実績	47回	4		
						前年度実績	43回			
			8		利用者数	令和7年度実績	34,522人	4		
						前年度実績	34,205人			
			9	友の会活動	会員数	令和7年度実績	159人	4		
						前年度実績	132人			
			10	ボランティア活動	活動延人数	令和7年度実績	188人	2		R７から学生ボランティアが減少
						前年度実績	246人			
大項目Ⅴの総合評価（Ａ～D）								**B**		
博物館コメント	・展示・運営協力会の展示会とサイエンスショー等で連携する団体が増えたことにより、前年度より連携事業の利用者数を増加させることができた。 ・大学がボランティア参加をカリキュラムの組み込んでいたが、Ｒ７から外れてしまったため学生ボランティアが減少しているが、ボランティアの募集回数を増やすなど人数の増を目指している。 ・出張講座の利用希望が増加しているが、現在の職員数ではこの数が上限と思われる。 ・県内の小学校を対象とした広報活をはじめ、一斉下見の開催で博物館の利用の仕方などを紹介することにより、当館を訪れる団体数が増えてきている。									

Ⅵ	教育・普及活動	来館状況	1	講座	講演会	参加者数	令和7年度実績	66人	2	B	参加者の減少要因として、中高生の参加者を増やすため例年より内容が若干難しかったことが考えられる。 R7「東京湾と海の森づくり」 R６「生活の中の錯視」
							前年度実績	107人			
			2		クリスマス実験講座	参加者数	令和7年度実績	233人	4		
							前年度実績	148人			
			3	体験教室	科学館わくわく教室	参加者数	令和7年度実績	3,196人	4		
							前年度実績	2,947人			
			4	産業学習in科学館		参加者数	令和７年度実績	344人	4		「食べ物」を扱う産業を紹介する回の参加者数が多くなる傾向がある。「たんけん‼ミライ～おいしいはちみつが採れるまで～」（R6実施）は198名の参加があった。
							前年度実績	268人			
			5	解説ツアー		参加者数	令和7年度実績	232人	4		来館する団体の数の増加にともない、希望団体が増えたため
							前年度実績	173人			
		総合的な満足度	6	講座	講演会	満足度「とっても良かった」＋「良かった」の割合	令和７年度実績	96%	4	A	配布数　66 回答数　25
			7		クリスマス実験講座		令和７年度実績	97%	4		参加者　233（家族ごとに配布） 回答数　79
			8	体験教室	科学館わくわく教室	満足度「とっても良かった」＋「良かっ	令和7年度実績	99%	4		配布数　3,200 回答数　2,982
			9	産業学習in科学館		満足度「とっても良かった」＋「良かっ	令和7 年度実績	90%	4		ちば電子システム ※配布数は出ない 参加者：344人　回答数：74
		利用状況	10	相談件数（来館、メール、電話等）		利用件数	令和７年度実績	28件	4		
							前年度実績	27件			
大項目Ⅵの総合評価（A～D）										**B**	
博物館コメント		・毎年クリスマス時期に、サイエンスステージにおいて普段とは異なる「クリスマス実験講座」を開催している。来館者に楽しんでもらうために、毎年テーマを変え、わかりやすい解説や効果的な見せ方を工夫している。広報活動をより充実させたほか、当日の別イベントと時間をずらすなど、館内での連携・調整を密に行ったことで、前年度より集客増につながった。また来館者からも好意的な感想が多く寄せられ、アンケート結果でも高評価を得た。 ・「科学館わくわく教室」は、定員を超える応募があり満足度も高い事業である。申込開始から30分ほどで定員が埋まってしまうこともある。									
Ⅶ	人材育成と安全管理	実習研修	1	博物館実習			令和７年度実績	8人	4	B	
							募集員数	8人			
			2	教員等の研修			令和7年度実績	3人	4		
							前年度実績	1人			
			3	職場体験			令和７年度実績	19人	3		
							前年度実績	23人			
			4	インターンシップ			令和7年度実績	2人	4		
							前年度実績	2人			
		安全管理	5	研修会の開催		実施回数	令和７年度実績	2回	4	A	
							前年度実績	2回			
			6	防災訓練実施等		実施回数	令和７年度実績	2回	4		
							前年度実績	2回			
大項目Ⅶの総合評価（A～D）										**B**	
博物館コメント		・教員研修は、R6年度からの総合教育センターの連携から外れてしまったことにより、参加者が少なくなったが、来館する学校団体の増加にともなって、当館が周知されるようになり、参加者数が少し回復している。 ・職場体験学習については、次年度以降近隣の学校等にチラシを配布し周知をはかりたい。									

Ⅷ	観光資源としての活用	観光連携	1	県外来館団体入込		令和7年度実績	137団体	4	A	
						前年度実績	102団体			
			2	外国人来館入込		令和7年度実績	580人	4		
						前年度実績	421人			
大項目Ⅷの総合評価（A～D）								A		
博物館コメント	当館に近い都内(江戸川区・墨田区・葛飾区など）に対しては、年度は初めに案内チラシを配布などの成果が出て入込数が増加している。 さらに、口コミ等の影響か、都内においては板橋区ほか、埼玉県、茨城県など遠方からの団体入館者が増加した。									
Ⅸ	ICTの活用	ICTの活用	1	デジタルミュージアム等のコンテンツの作成・整備	制作数	令和７年度実績	0件	1	C	現在公開中コンテンツ： ・デジタルミュージアム5件 ・おうちシリーズ32件　ほか
						前年度実績	0件			
			2	デジタルミュージアム等のコンテンツの利用状況	視聴数	令和７年度実績				（参考） 県公式YouTubeチャンネルに9番組登録中。 R6年度（8月～3月）視聴数：3,389 R7年度（4月～3月）視聴数：6,179
						前年度実績				
			3	インターネットを活用したオンラインでの講座等の開催	開催回数	令和7年度実績	3回	4		当館を会場とした千葉学講座をハイブリッド開催した。 産業学習in科学館において、現地とイベント会場を結び事業を実施した。
						前年度実績	0回			
			4	デジタル・デバイド解消のための対策	実施回数	令和７年度実績	1件	4		当館を会場とした千葉学講座をハイブリッド開催した。
						前年度実績	0件			
大項目Ⅸの総合評価（A～D）								C		
博物館コメント	・オフラインでの出張講座の希望が増加し、オンラインでの実施希望はなかった。 ・Wi-Fi設備を拡充し、千葉学講座をオンラインとのハイブリッドで実施した。 ・産業学習in科学館にこにおいて、工場とイベント会場を結び事業を実施した。									
総合評価（A～D）　［各達成度の平均］								B		
総合評価と次年度への対策	・来館者数は若干減少しているが、学校団体の利用数、連携利用者数は増加している。これまで学校団体などに積極的に広報をおこなってきた成果と思われる。 ・次年度は更にXをはじめとしたSNSを効果的に活用するとともに、プラネタリウムや企画展開催期間中の駅張りポスターなどを有効に活用して広報活動に力を入れ一般来館者の増をはかりたい。 ・また更に幅広い分野のものづくりに関わる仕事を紹介し、製造業や技術系の教育機関、県内産業への興味や理解を促進する。									

千葉県立博物館の事業に係る自己点検票（令和7年度事業）

達成度（数値達成度のめやす）		自己評価	総合評価
達成	目標値≧100%	4	A
ほぼ達成	目標値≧80%	3	B
やや不十分	目標値≧50%	2	C
不十分	目標値＜50%	1	D

満足度欄の達成度		自己評価
達成	達成値≧75%	4
ほぼ達成	達成値≧65%	3
やや不十分	達成値≧50%	2
不十分	達成値＜50%	1

分類	大項目	中項目	小項目 上段：達成値 下段：目標値			値の説明	数値	達成	総合	備考
Ⅰ	収蔵資料の整理・保存有効活用・調査研究	収蔵資料	1	博物館資料の受入等		令和7年度実績	1件	1	D	令和8年4月1日から世喜宿領之絵図(複製)(1)=62
						館設定の目標	51件			R3,R4,R5,R6実績の平均値≒51
			2	資料の情報化・公開実績		令和7年度実績	58点	1		資料複製のデジタル化(平手家システム登録(61)＋新規画像登録(58))
						館設定の目標	281点			R3設定なし、R4,R5,R6実績の平均値=281(280.6=(171+171+500)/3)
		収蔵資料の有効活用	3	館外貸出（外部機関等展示等）		令和7年度実績	3件	4	B	
						館設定の目標	3件			R3,R4,R5,R6実績の平均値=3件
			4	館内利用（学術調査等）		令和7年度実績	10件	3		資料閲覧件数
						館設定の目標	12件			R3,R4,R5,R6実績の平均値=12.25
			5	著作物資料への利用（出版物掲載等）		令和7年度実績	9件	2		
						館設定の目標	17件			R3,R4,R5,R6実績の平均値=16.5
		調査研究	6	調査事業件数	件数	令和7年度実績	13件	4	C	
						館設定の目標	13件			R3,R4,R5,R6実績の平均値=13.25
			7	共同調査事業件数	件数	令和7年度実績	0件	1		
						館設定の目標	1件			R4,R5,R6実績の平均値=1.33(R3データなし)
			8	研究成果の公開状況	研究報告論文数	令和7年度実績	6件	2		紀要の論文数
						館設定の目標	7件			R3,R4,R5,R6実績の平均値=7
大項目Ⅰの総合評価（A～D）								C		
博物館コメント	「資料の情報化・公開」以外は、他の団体や個人に求めに応じて行うもの。資料の情報化・公開については、入力すべき資料の情報は既に入力済みなので、今後はまとまった資料の受け入れが生じない限り、資料の画像情報を新たに撮影・登録することが中心となる。館員の調査研究については企画展に伴う資料調査が主体となっている。									
Ⅱ	入館者数と来館者の満足度	来館状況	1	博物館	入館者数	令和7年度実績	82,659人	3	B	
						館設定の目標	88,708人			R3,R4,R5,R6実績の平均値=88707.8
			2	企画展（関宿城に舞う鷹の羽～下総久世家～）	入館者数	令和7年度実績	13,482人	3		
						館設定の目標	14,751人			R3,R4,R5,R6実績の平均値=14750.75
			3	トピックス展等	入館者数	令和7年度実績	84,349人	4		パネル展、昔のくらし展、絵画コンクール、百景写真展
						館設定の目標	69,510人			R3,R4,R5,R6実績の平均値=69510.25
		展示の充実	4	常設展示	更新回数	令和7年度実績	3回	4	A	
						館設定の目標	3回			R3,R4,R5,R6実績の平均値=3
			5	企画展（関宿城に舞う鷹の羽～下総久世家～）	実施回数	令和7年度実績	1回	4		
						館設定の目標	1回			R3,R4,R5,R6実績の平均値=1
			6	トピックス展等	実施回数	令和7年度実績	6回	4		
						館設定の目標	6回			R3,R4,R5,R6実績の平均値=5.5
		総合的な満足度	7	企画展（関宿城に舞う鷹の羽）	アンケート満足度「非常に満足」＋「満足」の割合	令和7年度実績	92%	4	A	
			8	トピックス展等		令和7年度実績	93%	4		
大項目Ⅱの総合評価（A～D）								A		
博物館コメント	企画展では、開館30周年を記念して、企画展（関宿城に舞う鷹の羽～下総久世家～）と題して、関宿藩を最も長く治めた久世家にフォーカスし、老中を務め幕政の中枢を担いながら藩政に意を払い、どのように藩士領民を守ってきたのか紹介した。企画展やパネル展等のアンケートによる満足度調査では、9割以上が満足という良好な結果を得ている。									

分類	大項目	中項目	小項目					達成	総合	備考
			上段:達成値 下段:目標値			値の説明	数値			
Ⅲ	財源の確保	入場料	1	入場料収入	達成率	令和7年度実績	3,398,130円	4	B	R3,R4,R5,R6実績の平均値=3,071,103円 とするのは生々しいので、有料入館者数をカウントすることとしてはいかがか。
						館設定の目標	*3,071,103円*			
		外部資金	2	外部資金の獲得	件数	令和7年度実績	0件	1		芸術文化振興基金助成事業
						館設定の目標	1件			R3,R4,R5,R6実績の平均値=0.25であるが、目標は1件とする。
大項目Ⅲの総合評価(A～D)								B		
博物館コメント		入場料収入は入場者数の増加により伸びている。外部資金の獲得について、令和6年度は芸文振の補助金申請を行ったが、獲得できなかった。今後も獲得すべく継続して申請の予定である。								
Ⅳ	広報活動の積極的な展開	広報情報発信	1	HP等の情報発信	アップ数	令和7年度実績	260回	4	A	更新回数
						館設定の目標	258回			R3,R4,R5,R6実績の平均値=257.5
			2	HPでの利用状況	アクセス数	令和7年度実績	58,500件	4		ページビューアクセス数
						館設定の目標	53,241件			R3,R4,R5,R6実績の平均値=53240.5
			3	報道機関への情報発信	取材対応件数	令和7年度実績	15件	4		
						館設定の目標	11件			R3,R4,R5,R6実績の平均値=10.5
大項目Ⅳの総合評価(A～D)								A		
博物館コメント		HPのデータアップロード回数は、増加した。また、館内における事前確認を入念に行った。開館30周年記念ということもあり、取材対応件数も増え、館への注目度が高まった。								
Ⅴ	様々な主体との連携・協働	様々な主体との連携・協働(学校等)	1	学校団体利用	学校数	令和7年度実績	13校	3	B	
						館設定の目標	16校			R3,R4,R5,R6実績の平均値=15.5
			2		入館者数	令和7年度実績	608人	4		
						館設定の目標	493人			R3,R4,R5,R6実績の平均値=492.5
			3	生徒・児童の利用	入館者数	令和7年度実績	11,276人	2		個人入館者の内の中学生以下の人数
						館設定の目標	18,953人			R3,R4,R5,R6実績の平均値=18953.25
			4	博学連携(幼小中高への出前講座等)	学校数	令和7年度実績	2校	4		
						館設定の目標	1校			R3,R4,R5,R6実績の平均値=0.5
			5		利用者数	令和7年度実績	141人	4		二川小学校　清水高校
						館設定の目標	20人			R3,R4,R5,R6実績の平均値=19.5
		様々な主体との連携・協働(学校以外)	6	様々な主体との連携・協働	団体数	令和7年度実績	2団体	4	A	野田市青少年相談員連絡協議会 むらさきの里野田ガイドの会
						館設定の目標	2団体			R3,R4,R5,R6実績の平均値=2.25
			7		利用回数	令和7年度実績	2回	2		
						館設定の目標	3回			R3,R4,R5,R6実績の平均値=3.25
			8		利用者数	令和7年度実績	112人	4		
						館設定の目標	80人			R3,R4,R5,R6実績の平均値79.5
			9	友の会活動	利用人数	令和7年度実績	113人	4		
						館設定の目標	105人			R3,R4,R5,R6実績の平均値=104.5
			10	ボランティア活動	のべ活動人数	令和7年度実績	175人	4		
						館設定の目標	163人			R3,R4,R5,R6実績の平均値=163.45
大項目Ⅴの総合評価(A～D)								A		
博物館コメント		学校利用の受入れ数は減少傾向にある。来年度から野田市は、各学校各学年につき1回しか市バスが使えない。これまで市内巡りで中学年が来館することが多くあったが、市役所や消防署、ごみや水の行方について学ぶごみ処理場、浄水場は野田市の西部から南部地区に集中してあり、北部地区である当館を利用することは難しい。8年度は更なる減少が予想される。友の会の活動は例年どおりであった。大学やNPO等との連携・共催の事業はあまり行うことができなかった。								

分類	大項目	中項目	小項目					値の説明	数値	達成	総合	備考
			上段:達成値 下段:目標値									
Ⅵ	教育・普及活動	来館状況	1	講座	古文書を読む	参加者数		令和7年度実績	112人	3	B	延べ参加人数
								館設定の目標	123人			R3,R4,R5,R6実績の平均値=122.75
			2		博物館セミナー	参加者数		令和7年度実績	118人	3		延べ参加人数
								館設定の目標	145人			R3,R4,R5,R6実績の平均値=144.5
			3	体験教室	城下を歩こう	参加者数		令和7年度実績	42人	2		延べ参加人数
								館設定の目標	70人			R3,R4,R5,R6実績の平均値=69.5
			4		河川敷のいきものさがし	参加者数		令和7年度実績	24人	4		延べ参加人数
								館設定の目標	19人			R3,R4,R5,R6実績の平均値=19
			5	ワークショップ		参加者数		令和7年度実績	2,256人	4		ワークショップ(県民の日WS、夏休み子どもスケッチ、お正月飾りを作ろう、関宿城でお正月)の参加人数の総和
								館設定の目標	2,386人			R3,R4,R5,R6実績の平均値=2386
			6	カッピーまつり(GWイベント)		参加者数		令和7年度実績	5,785人	3		カッピーまつり期間中の入館者数
								館設定の目標	7,112人			R3,R4,R5,R6実績の平均値=7111.75
			7	野外講座(歴史散歩)(企画展関連)		参加者数		令和7年度実績				荒天により開催中止(申込人数20名、キャンセル1名)
								館設定の目標	20人			事業の性格から募集定員の20名を目標値とした
			8	シンポジウム(企画展関連)		参加者数		令和7年度実績	62人	4		R6以前は講座、R7はシンポジウムを実施
								館設定の目標	22人			R3,R4,R5,R6実績の平均値=21.5
		総合的な満足度	9	講座	歴史講座「古文書を読む」	満足度「とても良かった」+「良かった」の割合		令和7年度実績	98%	4	A	
			10		博物館セミナー			令和7年度実績	92%	4		
			11	体験教室	城下を歩こう			令和7年度実績	100%	4		
			12		河川敷のいきものさがし			令和7年度実績	100%	4		
			13	野外講座(歴史散歩)				令和7年度実績				荒天により開催中止
			14	シンポジウム(企画展関連)				令和7年度実績	92%	4		
		利用状況	13	相談件数(来館、メール、電話等)		対応件数		令和7年度実績	57件	3	B	
								館設定の目標	70件			R3,R4,R5,R6実績の平均値=70
大項目Ⅵの総合評価(A～D)										B		
博物館コメント		企画展関連の野外講座「歴史散歩」が荒天により中止となった。それ以外の講座や体験教室はほぼ予定通り実施できた。参加者の満足度について昨年同様おおむね良好であった。										
Ⅶ	人材育成と安全管理	実習・研修等の受入	1	博物館実習				令和7年度実績	0人	1	C	
								館設定の目標	4人			R3,R4,R5,R6実績の平均値=4
			2	教員等の研修				令和7年度実績	49人	4		初任者研修　中堅教諭資質能力向上研修
								館設定の目標	36人			R3,R4,R5,R6実績の平均値=35.5
			3	職場体験				令和7年度実績	0人	1		
								館設定の目標	1人			R3,R4,R5,実績の平均値は0人であるが目標は1人とした。
			4	インターンシップ				令和7年度実績	0人	1		
								館設定の目標	4人			R4,R5,R6実績の平均値=4.33 (R3は募集せず)
		職員研修等の実施	5	研修の実施		実施回数		令和7年度実績	5回	4	A	
								館設定の目標	5回			年間4～5回の展示替えを研修の機会と考える
			6	防災訓練実施等		実施回数		令和7年度実績	1回	4		
								館設定の目標	1回			毎年1回実施
大項目Ⅶの総合評価(A～D)										B		
博物館コメント		博物館実習・インターンシップともに希望者なし。野田市の初任者研修の一環として研修を行った。初任者の中にも初めて来館する者が多く、解説を行うことで、教職員の新たな学びにつながった。少人数の館なので研修会と称するほどではないが、年数回の展示替えなどを全員で行うことで、展示技術や資料の扱い方等について学ぶ場とし、館員の資質向上を図っている。										

分類	大項目	中項目	小　項　目					達成	総合	備考
			上段:達成値　下段:目標値			値の説明	数値			
Ⅷ	観光資源としての活用	観光連携	1	県外来館団体入込		令和7年度実績	35団体	3	A	
						館設定の目標	42団体			R3,R4,R5,R6実績の平均値=41.75
			2	外国人来館入込		令和7年度実績	225人	4		
						館設定の目標	183人			R3,R4,R5,R6実績の平均値=182.75
大項目Ⅷの総合評価(A～D)								A		
博物館コメント	県外からの来館団体は減少している。外国人来館者数は目標値を上回っているものの減少傾向にある。									
Ⅸ	ICTの活用	ICTの活用	1	デジタルミュージアム等のコンテンツの作成・整備	作成数	令和7年度実績	1件	2	D	企画展内容紹介コンテンツを作成
						館設定の目標	2件			R3,R4,R5,R6実績の平均値=2
			2	インターネットを活用したオンライン講座等の開催	開催回数	令和7年度実績	0回	1		
						館設定の目標	1回			過去に実施実績がないため、目標を1とした。
大項目Ⅸの総合評価(A～D)								D		
博物館コメント	ICTの活用分野については、めぼしい成果を上げられていない。企画展示の内容などをデジタルミュージアムコンテンツとして追加するなど、できるところから手を付けていきたい。									
総合評価(A～D)　[各達成度の平均]								B		
総合評価と次年度への対策	30周年記念として、関宿藩を長く治めた久世家やクイズラリーなど、地域住民や初めて来館される方に興味をもってもらえるような企画やイベントを開催したが、入館者の増加にはつながらなかった。学生を対象としたイベントについて重点的に広報したが結びついてない。次年度、前述したように学校単位での来館数は減少するものとみられ、対策としては、来館するための交通手段の確保が最優先と考えられる。 歴史講座は体験教室等への評価はとても高いので、この水準を保ちつつ、内容の更なる充実を図っていきたい。									

千葉県立博物館の事業に係る自己評価票（令和7年度事業：房総のむら）

達成度（数値達成度のめやす）		自己評価	総合評価
達成	目標値≧100%	4	A
ほぼ達成	目標値≧80%	3	B
やや不十分	目標値≧50%	2	C
不十分	目標値＜50%	1	D

満足度欄の達成度		自己評価
達成	達成値≧75%	4
ほぼ達成	達成値≧65%	3
やや不十分	達成値≧50%	2
不十分	達成値＜50%	1

分類	大項目	中項目	小項目 上段：達成値 下段：目標値			値の説明	数値	達成状況	総合評価	備考
Ⅰ	収蔵資料の整理・保存有効活用・調査研究	収蔵資料	1	博物館資料の受入等		令和7年度実績	1件	4	B	寄贈1件。 埴輪テンパコ40箱分。
						前年度実績	0件			
			2	資料の情報化・公開実績		令和7年度実績	0点	1		
						前年度実績	121点			
			3			令和7年度実績				
						前年度実績				
		収蔵資料の有効活用	4	館外貸出（外部機関等展示等）		令和7年度実績	18件	4	A	
						前年度実績	18件			
			5	館内利用（学術調査等）		令和7年度実績	24件	3		
						前年度実績	30件			
			6	著作物資料への利用（出版物掲載等）		令和7年度実績	19件	4		
						前年度実績	15件			
		調査研究	7	調査事業件数	件数	令和7年度実績	3件	4	A	トピックス展「房総の牧」1件 企画展「房総の海辺のむら」1件、屋外展示「千葉の民俗芸能」1件
						前年度実績	2件			
			8	共同調査事業件数	件数	令和7年度実績				
			9	研究成果の公開状況	論文研究報告	令和7年度実績	3件	4		トピックス展「房総の牧」1件 企画展「房総の海辺のむら」1件、屋外展示「千葉の民俗芸能」1件
						前年度実績	2件			
大項目Ⅰの総合評価（A～D）									A	
博物館コメント	資料の受け入れについては、指定管理という組織上の問題や収蔵スペースがほぼ満杯であることを踏まえ、積極的な受け入れはしていない。また、資料の情報公開について、令和8年度は力を入れていきたい。									

分類	大項目	中項目	小項目 上段:連成値 下段:目標値			値の説明	数値	達成状況	総合評価	備考
Ⅱ	入館者数と来館者の満足度	来館状況	1	博物館	入館者数	令和7年度実績	159,884人	4		
						前年度実績	161,324人			
			2	企画展「房総の海辺のムラー漁撈から見た人々のくらしー」	入館者数	令和7年度実績	20,091人	4		会期:12月7日～2月2日 令和5年度はトピックス展「千葉の行商」
						前年度実績	21,571人			
			3	トピックス展「房総の牧」	入館者数	令和7年度実績	10,272人	1	B	会期:2月22日～4月20日
						前年度実績	28,957人			
			4	屋外展示「千葉の民俗芸能」	入館者数	令和7年度実績	26,190人	4		屋外展示「千葉の民俗芸能」 会期:10月18日～11月24日
						前年度実績	0人			
			5	千葉県教育振興財団設立50周年記念展Part2	入館者数	令和7年度実績	22,954人	2		会期:9月6日～10月26日 「古墳・古代・中近世」
						前年度実績	34,655人			
		展示の充実	6	常設展示	更新回数	令和7年度実績	0回	1		
						前年度実績	0回			
			7	むらの歳時記 (四季折々の展示)	実施回数	令和7年度実績	45回	4		季節に応じた生活歳時記(展示・実演)の実施は、その年の暦によって回数が前後する。
						前年度実績	51回			
			8	企画展(「房総の海辺のムラー漁撈から見た人々のくらしー」)	実施回数	令和7年度実績	1回	4	B	
						前年度実績	1回			
			9	トピックス展等	実施回数	令和7年度実績	3回	4		「房総の牧」、千葉県誕生150周年記念「写真で見るちばのあゆみ」、千葉県教育振興財団設立50周年記念展Part2、屋外展示「千葉の民俗芸能」
						前年度実績	3回			
		総合的な満足度	10	常設展示	アンケート満足度「非常に満足」+「満足」の割合	令和7年度実績	87%	4		
			11	企画展「房総の海辺のムラ」		令和7年度実績	91%	4	A	
			12	トピックス展等		令和7年度実績	92%	4		
大項目Ⅱの総合評価(A～D)									B	
博物館コメント	来館者数については0.8%ほど減少(△1,440人)したが、アンケート調査の満足度は比較的高い状況である									
Ⅲ	財源の確保	入場料	1	入場料収入	達成率	令和7年度実績	102%	4	A	来館者数はやや減少したものの、前年度までと比較すると有料・一般客の増加に伴って入場料収入も微増した
						前年度実績	103%			
		外部資金	2	外部資金の獲得	件数	令和7年度実績	13件	4		賛助会員(12→13)
						前年度実績	12件			
大項目Ⅲの総合評価(A～D)									A	
博物館コメント	入館者数の増加とともに入場料収入も増加した。また、賛助会員の勧誘に努め、会員数が12団体から13団体に増加した									

分類	大項目	中項目	小項目 上段:達成値 下段:目標値			値の説明	数値	達成状況	総合評価	備考
Ⅳ	広報活動の積極的な展開	広報情報発信	1	HP等の情報発信	アップ数	令和7年度実績	682回	4	A	HP情報UP310件、ブログ73件、X(旧ツイッター)178件、インスタグラム121件
						前年度実績	662回			
			2	HPでの利用状況	アクセス数	令和7年度実績	303,146件	4		
						前年度実績	296,408件			
			3	報道機関への情報発信	取材件数	令和7年度実績	22件	4		
						前年度実績	21件			
大項目Ⅳの総合評価(A～D)									A	
博物館コメント	ブロク投稿数は減少したが、情報発信ではインスタグラムやXの発信数が増加するよう努力した。									
Ⅴ	学校及び地域(関係団体)との連携・協働	学校との連携	1	学校利用受入	学校数	令和7年度実績	258校	4	A	
						前年度実績	263校			
			2		入館者数	令和7年度実績	15,920人	4		
						前年度実績	15,809人			
			3	生徒・児童	入館者数	令和7年度実績	13,776人	4		
						前年度実績	14,013人			
			4	博学連携(幼小中高への出前講座等)	学校数	令和7年度実績	1校	4		R7年度は我孫子市立我孫子第二小学校への出前授業を実施した
						前年度実績	1校			
			5		利用者数	令和7年度実績	28人	2		
						前年度実績	44人			
		地域関係団体との連携	6	連携・共催(大学、NPO等)	団体数	令和7年度実績	41団体	4	A	他団体連携＋特定マーケット連携
						前年度実績	28団体			
			7		利用回数	令和7年度実績	29回	4		地元市町、日本ユニセフ、県観光物産協会、各交通事業者等
						前年度実績	19回			
			8		利用者数	令和7年度実績	223人	4		ユニセフ92人、千葉交響楽団91人、博物館実習7人、インターンシップ10人、中央博(里山観察会)23人
						前年度実績	262人			
			9	友の会活動	利用人数	令和6年度実績				
			10	ボランティア活動	活動延人数	令和6年度実績	685人	4		
						前年度実績	800人			
大項目Ⅴの総合評価(A～D)									A	
博物館コメント	地元の学校団体や市町、成田空港(株)などの交通事業者等と連携事業を開発している									

分類	大項目	中項目	小項目						達成状況	総合評価	備考
			上段:達成値 下段:目標値				値の説明	数値			
Ⅵ	教育・普及活動	来館状況	1	講座	考古学講座	参加者数	令和7年度実績	154人	2	B	
							前年度実績	300人			
			2	講座	伝統文化入門	参加者数	令和7年度実績	47人	4		
							前年度実績	43人			
			3		子ども里山観察会、里山観察会	参加者数	令和7年度実績	52人	4		
							前年度実績	44人			
			4	体験教室	出張体験	参加者数	令和7年度実績	719人	1	B	成田伝統芸能まつり、県民の日中央・地域行事、鴨青まつり等(鉄道事業者のイベントが無かったため参加者数が減少)
							前年度実績	1,985人			
			5		団体体験	参加者数	令和7年度実績	18,013人	4		
							前年度実績	19,547人			
			6	ワークシートを活用した「むら体験」		参加者数	令和7年度実績	10,708人	4	A	
							前年度実績	11,427人			
			7	体験数		参加者数	令和7年度実績	87,920人	4		
							前年度実績	102,382人			
		総合的な満足度	8	講座		満足度「とっても良かった」+「良かった」の割合	令和6年度実績				講座や体験の数が非常に多く、各々のアンケートをとっていない
			9				令和6年度実績				
			10		○○		令和6年度実績				
			11	体験教室	○○	満足度「とっても良かった」+「良かった」の割合	令和6年度実績				講座や体験の数が非常に多く、各々のアンケートをとっていない
			12		○○		令和6年度実績				
			13	○○		満足度「とっても良かった」+「良かった」の割合	令和6年度実績				
			14	○○			令和6年度実績				
		利用状況	15	相談件数		利用件数	令和6年度実績				統計を取っていないため件数は不明
大項目Ⅵの総合評価(A～D)									A		
博物館コメント		全体の体験者数はやや減少しているが、出張体験等を積極的に展開し、新たな普及活動に注力をしている。									

分類	大項目	中項目	小項目				値の説明	数値	達成状況	総合評価	備考
			上段:達成値 下段:目標値								
Ⅶ	人材育成と安全管理	実習	1	博物館実習			令和7年度実績	7人	4	A	
							前年度実績	6人			
			2	教員等の研修			令和7年度実績	4人	4		
							前年度実績	2人			
			3	職場体験			令和7年度実績	0人	1		前年度に引き続き,R7年度も地元中学校からの希望がなかったため
							前年度実績	0人			
		研修	4	インターンシップ			令和7年度実績	10人	4		大学生5名、高校生5名
							前年度実績	10人			
		安全管理	5	研修会の開催	実施回数		令和7年度実績	31回	4	A	職員全体研修20回、救急法等特別な研修11回
							前年度実績	30回			
			6	防災訓練実施等	実施回数		令和6年度実績	1回	4		
							前年度実績	1回			
大項目Ⅶの総合評価(A～D)									A		
博物館コメント	救急法基礎講習や労働災害防止のための講習会への職員参加を積極的に実施している										
Ⅷ	観光資源としての活用	観光連携	1	県外来館団体入込			令和7年度実績	155団体	4	A	
							前年度実績	54団体			
			2	外国人来館入込			令和7年度実績	5,537人	4		
							前年度実績	4,426人			
大項目Ⅷの総合評価(A～D)									A		
博物館コメント											
Ⅸ	ICTの活用	ICTの活用	1	デジタルミュージアム等のコンテンツの作成・整備	制作数		令和7年度実績	2件	4	B	
							前年度実績	2件			
			2	デジタルミュージアム等のコンテンツの利用状況	視聴数		令和7年度実績				
			3	インターネットを活用したオンラインでの講座等の開催	開催回数		令和7年度実績				
			4	デジタル・デバイド解消のための対策	実施回数		令和7年度実績	0回	1		
							前年度実績	0回			
大項目Ⅸの総合評価(A～D)									B		
博物館コメント	博物館内でのWi－Fiポイントを増やすことによって来館者サービスの向上が見込まれるが、敷地が広大なことからアクセスポイントの数と、Wi-fi契約料が増額となるため実施は難しい										
総合評価(A～D) [各達成度の平均]									A		
総合評価と次年度への対策	●総合評価　大項目のA評価が6項目(66.7%)、B評価が2項目(33.3%)、C評価は0となっているが、ICTの活用については館内のインフラ整備などに取り組む必要がある。 ●次年度への対策　さらなるキャッシュレス化の整備と、来館者の安全確保と博物館の自然や景観を守るため里山の再生に取り組む必要がある。										